

平成 23 年度
エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業
事例集



目 次

エコツアーリズム推進アドバイザー派遣事業について.....	1
派遣地域 01 知床エコツアーリズム推進協議会	5
派遣地域 02 NPO 法人南富良野まちづくり観光協会	13
派遣地域 03 環白神エコツアーリズム推進協議会	19
派遣地域 04 岩手県二戸市.....	27
派遣地域 05 NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク	35
派遣地域 06 上市町観光協会	43
派遣地域 07 南アルプス・井川エコツアーリズム推進協議会.....	49
派遣地域 08 岐阜県下呂市.....	57
派遣地域 09 兵庫県宍粟市.....	65
派遣地域 10 名峰景観ツアーリズム・シンポジウム実行委員会	73
派遣地域 11 南大東村教育委員会	81
派遣地域 12 NPO 法人西表島エコツアーリズム協会	89

エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業について

●事業目的

本事業は、エコツーリズムに取り組む地域の中で、外部のアドバイザーの助言・指導によってよりよい取り組みの方向性を探ろうと希望する地域を対象として、専門知識や取り組みの経験を有するアドバイザーを派遣し、それぞれの地域が抱えている課題やニーズに対して個別に助言・指導を行うことで、より一層のエコツーリズムの推進を図ることを目的としたものです。

●事業内容（※平成 23 年度の実施内容）

本年度は、エコツーリズム推進に取り組む地域からの申請に基づき、以下のような方法で、アドバイザーを派遣しました。

（平成 23 年度募集要項より ※詳細は環境省 HP をご参照ください。）

○アドバイザーについて

各申請地域それぞれが抱えるエコツーリズム推進上の諸課題や、取組の熟度に応じたアドバイスができるよう、幅広い分野の有識者に、予めアドバイザーとして就任をお願いしています。上記以外でも、申請地域で派遣を希望する有識者について、一定の基準の下で、アドバイザーとして派遣を行うこともできます。

○申請～選定～派遣の流れ

派遣を申請する地域から、申請書の提出を受け、環境省で審査を行います。

アドバイザーが現地を訪問し地域の実状に応じて個別に指導・助言を行います。

派遣終了後、地域及びアドバイザーからレポートを提出していただきます。

○派遣方法について

派遣は、申請地域ごとに「1 回、1 泊 2 日」を基本としますが、申請内容に応じて個別に調整します。本事業では、アドバイザー派遣にかかる旅費（申請地域までの往復旅費、宿泊費）、及び謝金を環境省（事務局）側で負担します。

○派遣時期

平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月

○派遣する地域数

本事業内で上限 30 地域（回）まで

○応募資格

エコツーリズムの推進に取り組んでいる、下記のような団体が申請することができます。

- ①エコツーリズムや観光の振興を図る目的で組織された協議会
- ②地域の観光協会、観光連盟、商工会議所など
- ③広域圏で形成された①、②の団体

※個別の団体や企業による職員向けの研修・勉強会を目的とする場合は対象外となります。

●本年度の派遣実施地域とアドバイザー

地域	申請団体	派遣アドバイザー	
北海道羅臼町	知床エコツーリズム推進協議会（羅臼）	阪野真人氏	NPO 法人 霧多布湿原ナショナルトラスト
北海道南富良野市	NPO 法人南富良野まちづくり観光協会	寺崎竜雄氏	財団法人日本交通公社 観光調査部長
環白神地域	環白神エコツーリズム推進協議会	木村宏氏	NPO 法人信越トレイルクラブ事務局長（一社団法人信州いいやま観光局事業課長兼企画開発室長）
岩手県二戸市	岩手県二戸市	真板昭夫氏	京都嵯峨芸術大学芸術学部 観光デザイン学科教授
		比田井和子氏*	株式会社未来政策研究所 主任研究員
千葉県印西市	NPO 法人千葉ラーバン千葉ネットワーク	城戸基秀氏	財団法人日本生態系協会 地域計画室長
富山県上市町	上市町観光協会	山田桂一郎氏*	日本エコツーリズム協会理事 （JTIC.SWISS 代表）
静岡県静岡市	南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会	海津ゆりえ氏	文教大学国際学部准教授
岐阜県下呂市	岐阜県下呂市	真板昭夫氏	京都嵯峨芸術大学芸術学部 観光デザイン学科教授
		比田井和子氏*	株式会社未来政策研究所 主任研究員
兵庫県宍粟市	宍粟市・波賀エコツーリズム研究会	安類智仁氏	財団法人尾瀬保護財団 企画課主任
国立公園大山を中心とした地域	名峰景観ツーリズム・シンポジウム実行委員会	三木廣氏*	NPO 法人富士山エコネット 代表理事
		橋詰元良氏*	NPO 法人浅間山麓国際自然学校 代表理事
沖縄県島尻郡南大東村	沖縄県島尻郡南大東村	真板昭夫氏	京都嵯峨芸術大学芸術学部 観光デザイン学科教授
沖縄県竹富町	NPO 法人西表島エコツーリズム協会	江崎貴久氏	有限会社オズ代表取締役 旅館海月女将

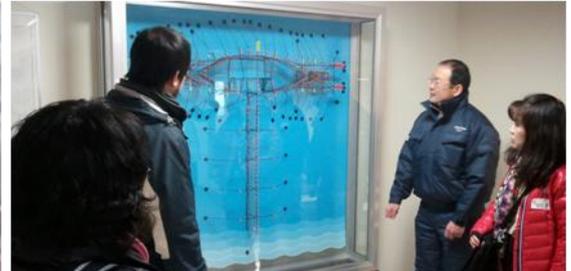
*印は環境省から提示したリスト外で、地域から希望があり派遣を行ったアドバイザー

アドバイザー派遣事業 取組事例

(報告会の発表に関連する団体を抜粋)

知床エコツーリズム推進協議会

所在地 北海道目梨郡羅臼町本町 361-1 (知床羅臼町観光協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

エコツアーを定着させる仕組みづくりへ

ホエールウォッチングや登山・トレッキングについては、専門のガイドがおり、定着しているが、観光協会等が企画したエコツアーは単発で終わってしまっている現状にあるため、持続可能なエコツアーの商品化について、専門家からのアドバイスをいただき、今後のエコツアー造成に役立てたい。

近年の観光客が求める“体験”や“地域住民とのふれあい”に加えて、今年度より受け入れた修学旅行により、町を紹介するガイドの必要性が更に高まっている。発掘・育成には、町でも取り組んでいるが、現在は数名の町民ガイド（65歳以上）と観光協会理事がガイド役となって対応している。

エコツアーを定着させるためにも、町民ガイドの人材発掘やガイドの品質維持のための、仕組みづくりが急務である。

また、登山やシーカヤックなどをガイドする専門ガイドと、町や羅臼の漁などを案内する町民ガイドのすみ分けが今後課題になると予測され、誰もが納得して関わることができるエコツアーのための仕組みを考えたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
大型鯨類、猛禽類、羅臼湖、間欠泉、昆布干しやウニ漁など一年中行われている様々な漁労風景	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること) 秋鮭荷揚げ見学、網外し・市場見学		
(取組を検討していること) ムラサキウニ駆除プログラム、オニアザミ駆除プログラム		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成24年3月7日（水）～8日（木）

●場所

北海道目梨郡羅臼町 湯ノ沢地区、船見町、岬町

●エコツーリズム推進アドバイザー

NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト 阪野 真人 氏

●参加者

公益財団法人知床財団、知床羅臼町観光協会、知床斜里町観光協会、美深町観光協会、
知床ネイチャークルーズ、町民ガイド、宿泊施設関係者 合計10名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

(1日目)

- ・ 羅臼漁業協同組合第2市場見学、観光船流水&バードウォッチング
- ・ 羅臼漁港全天候型埠頭、海洋深層水取水施設見学
- ・ 羅臼町上水道浄化施設、サケ・マス孵化場見学

(2日目)

- ・ ウニ種苗センター見学
- ・ 昆布倉庫見学、おつまみ昆布制作体験
- ・ アドバイス・レクチャー、意見交換会

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

エコツアーのコーディネーターの資質向上と人材確保の必要性を認識した。

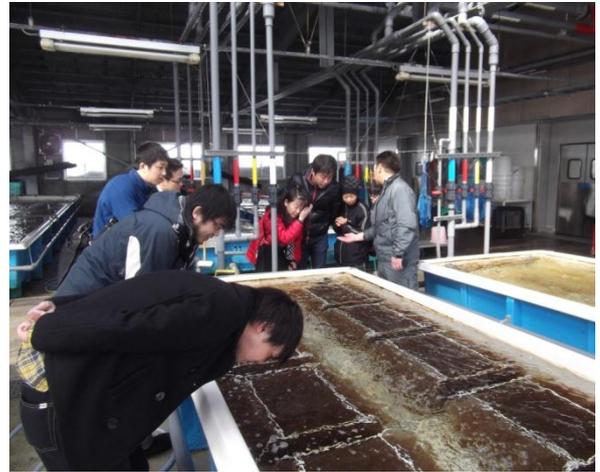
羅臼町にある既存の施設で案内やストーリー性を持たせることでエコツアーとして商品化できるが、観光協会職員だけではできないと参加者が認識した。

一部の参加者と、ガイド育成やツアー造成に関する相談できる関係が構築された。

●今後の期待される効果

知床エコツー推進協・観光協会の圧倒的な人的資源の不足を感じていただいたことで、今後は積極的に協力や助言を求めやすくなった。

漁港案内など、産業に特化したエコツアーの町民ガイドの確保・質の担保を目的とした講習会や勉強会の開催。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

漁師さんを巻き込んだエコツーリズムについて、その企画と継続のコツを学んだ。

関わる人たちが楽しんで取り組めるような、コーディネートする側の配慮が必要。

各施設は充実しているが、解説を聞いただけでは理解が困難なものが多かった。説明の方法と予備知識の有無によって得られるものが全く違うので、より充実したプログラムとするためには、事前配布資料やDVDの鑑賞を移動時間に挟むなどの工夫が必要だった。

阪野アドバイザーの人柄により参加者は素直に発言でき、意見交換タイムに限らず質問し助言をいただくことができた。また、阪野氏がエコツアーを实践されていることで、アドバイスの内容が現実的で、すんなりと参加者に理解されたようだった。今後協議会活動への積極的に関わってくれることを期待している。

阪野アドバイザーからの地域へのアドバイス

●事前に出てきていた課題

- ・ 観光協会等が企画したエコツアーは単発で終わってしまっている現状にあるため、持続可能なエコツアーの商品化につなげる。
- ・ 町を紹介するガイドの必要性が更に高まっている。発掘・育成には、町でも取り組んできているが、現在は数名の町民ガイド(65歳以上)と観光協会理事がガイド役となって対応している。エコツアーを定着させるためにも、町民ガイドの人材発掘やガイドの品質維持のための、仕組みづくりが急務である。

●現地で聞かれた課題

- ・ 地域から観光協会が何をしている団体か分かってもらっていない
- ・ 観光協会の地元協力者が少ない(主体的な協力者)
- ・ 観光協会の事務局スタッフが少ない

これらの課題を踏まえて、当 NPO が実施している漁業地帯でのエコツアーの概要を、以下の 3 つに要点を絞り、特にコーディネーターの役割や必要性について焦点をあてて説明した。

- ① 地域協力者を増やすコツ。
- ② ガイド養成よりもコーディネーター養成が必要であること。
- ③ コーディネーターとなるには何が必要か。

漁業地帯でのツアーを考える場合、一人の漁師ガイドを養成しても数個のツアーしかできないが、観光協会などがコーディネーターとなり、協力的な漁師たちとツアーをすることで、いくつものツアーが作成可能になることや、地域との関わりを増やしていくには、自分達だけで完結せずに、困った時には助けてと声を出し続ける「助けてコミュニケーション」などの手法を意識して行うと良いなど、羅臼でのエコツーリズムの普及に役立てる為、当 NPO の事例紹介を通じて具体的なアドバイスをを行った。

●地域に対する印象、コメント(メッセージ)

まず、町外への PR 活動と地域のエコツーリズムの仕組み作りを行うには、羅臼観光協会の事務局スタッフが不足している。この事については、協会スタッフや協力者達も認識している。協力の輪をどのように広げていくかが今後の課題となっている。

また各地域で漁業の不振が聞かれるが、羅臼の漁業地帯の活気はある。今回モデルツアーで見学した全天候型埠頭や漁協の昆布倉庫などは、団体ツアーの受け入れも可能なほど大型で観光利用にも適しており、漁協や一部の漁師からのエコツアーへの協力体制もある程度できている。世界自然遺産に登録された周辺の自然資源も組み合わせながら、漁業資源を活用したエコツアーを開発することは十分に可能な基盤がある。

今後は、漁業関係者と羅臼でのエコツーリズムの必要性を共有し、エコツアーへの積極的な協力や新しいツアーの開発など、具体的な行動に結びついていく必要がある。

羅臼観光協会自身が地域のディレクターやコーディネーターとなり、さらに地域の協力者もコーディネーターとなることで、漁業関係者がエコツアーガイドとして生きてくる。協会の人員不足と漁業資源を活かしたエコツアーの開発には、この手法から取り組むことが良いのではと思われる。

NPO 法人南富良野まちづくり観光協会

02

所在地 北海道空知郡南富良野町字幾寅 1003-44(NPO 法人南富良野まちづくり観光協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

エコツーリズム推進の組織づくりに向けた第一歩に

南富良野町は、25年前から豊かな自然環境に誘引され、自発的にアウトドア事業者が集約され、カヌー・ラフティング・犬ぞり・パウダースキーなどガイド付アウトドア体験観光では北海道内でも先駆的な地域となった。

しかし現在はガイドの中年化やアウトドアブームの衰退、少子化、近隣市町村の事業者の無秩序な事業拡大などにより将来が不安視されている。5年前設立されたNPO 法人南富良野まちづくり観光協会では、南富良野町内の新たな自然体験観光資源を調査し、極相の森の巨木群、春秋のエゾシカの移動、イトウの産卵活動、砂金掘りなどの新資源を発掘した。しかし南富良野町は国立公園等の範囲外であるため、利用ルールづくりや組織化が見込める町内のアウトドア事業者だけではなく、近隣市町村の事業者の無秩序な観光利用が予想され、貴重な自然資源が損なわれる可能性がある。南富良野町は町独自の「イトウ保護条例」を施行しているが、産卵期のイトウの捕獲自粛は求められても、観察に関しては制限できないのが現状である。

そこで「エコツーリズム推進協議会」を設立し、「地域の自然は地域で守り利用する」をモットーに、町内アウトドア体験事業者を中心に組織づくり、ルールづくりを進め、合わせて南富良野町役場には「エコツーリズム推進法」指定地区となるべく事業を立ち上げてもらいたい。今アドバイザー派遣はその第一歩といたしたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加		○
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 27 日（月）～28 日（火）

●場所

北海道空知郡南富良野町字幾寅ならびに字内藤の町有林（通称：極相の森）

●エコツーリズム推進アドバイザー

財団法人日本交通公社 観光調査部長 寺崎竜雄 氏

●参加者

南富良野町、南富良野町商工会、NPO 法人南富良野まちづくり観光協会、(株)南富良野町振興公社、NPO 法人どんころ野外学校 他 計 25 名参加

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1 日目）

- ・ 南富良野町幾寅までの車中で日程打合せ
- ・ 内藤地区の町有林（通称：極相の森）を視察
- ・ 「エコツーリズム推進セミナー」でご講演
- ・ 参加者と懇親会

（2 日目）

- ・ 「地域コーディネーター事業」応募について打合せ

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

一部の参加者を除いて、この1月まで全く知らなかった「エコツーリズム」について寺崎氏の2回の講演会で知ることが出来た。また南富良野町町長、企画課、産業課職員をはじめとする行政、商工会関係者、一般町民に南富良野町の観光だけではなく、自然を生かした町づくりの将来像の一つの選択肢として「エコツーリズム推進」を考え始めるきっかけとなった。

●今後の期待される効果

○参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズムとは何か体系付けて学ぶことが出来た。またエコツーリズムを推進することによって発生する自然や地域に対する影響について、良い面、悪い側面について学ぶことが出来た。これをベースにアウトドア事業者、行政、商工業者、一般町民が南富良野町の自然と地域の将来像について同じテーブルを囲んで話し合えるきっかけとなった。

○今後の地域におけるエコツーリズムの推進に対してもたらされることが期待される効果

今春早々の南富良野エコツーリズム推進協議会の設立に向けて、設立準備会を立ち上げることが出来た。準備会として「平成24年度エコツーリズム推進コーディネーター活用事業」への申請が出来た。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

先進地の状況を知ることが出来た。世界自然遺産登録地域や国立公園指定地域で起こっている悪しき状況、エコツーリズム推進のための合意形成を阻害する要因等を事前に知ることができた。

当地域は、国立公園指定地域外であり、かつ優良な自然が未だ未利用である。しかし今後アウトドア体験事業者の、エコツーリズムへの転換を推進してゆく場合、他地域の悪しき状況や合意形成を阻害する要因を事前に避けていくことが可能となった。



●その他感想

非常に優れた講師陣容であり、ぜひとも他の講師の他のジャンルの話を聴講したい。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

寺崎アドバイザーからの地域へのアドバイス

●町有林「極相の森 (仮称)」の活用について

「極相の森 (仮称)」は、町中心部から車で10分程度の位置から山麓に立地する樹林帯で、この時期にはスノーシュー利用によって、立ち入ることができる場所である。このエリアのエコツアー利用についての助言としては、単に「見る」対象としては、一つ一つの木の大きさや、密集度からすると観光的価値は限定的である。

しかし、専門性をもったガイドが解説をすることにより、その価値が大きく発揮されるだけの資質をもった場所である。

この資源を地域への誘客力の中心に据えることは難しいが、富良野を訪れた観光客に、追加的な自然観光を体験してもらうには、立地面、資源性ともにポテンシャルがある。

一方で、無秩序な利用は資源破壊に直結するので、利用と保全の方向性を十分に検討した上で、ガイドの育成なども含めて事業化していくことが望ましい。

●講演会における助言

平成24年1月に「ニューツーリズムへの取り組み」について講演会を開催し、その中で「ガイドダンス」に関する情報は情報提供済みであった。そのため、この講演会では主として①ルールに関すること、②エコツーリズム推進法、に関する情報提供を行った。

ルールに関することについては、屋久島を事例として引用した上で、無秩序な急展開により引き

起こる可能性のある、

○資源そのものの劣化

- ・ 不適切な利用による自然資源の破壊
- ・ 不適切な利用による資源価値の低下

○利用環境の劣化

- ・ 過剰利用から資源を守るために、過度な施設整備。これにより資源の原生性が低減
- ・ 過剰利用により、サービス施設の処理能力がオーバーフロー
- ・ 資源とふれあう環境の劣化（資源本来のすばらしさが、伝わらない）
- ・ 利用者の満足度の低下

について現象や問題点を具体的に説明し、対応策として関係者が意見交換を行えるような機会を設置し、地域の将来目標や、そこに向けた行動方針などを議論し、共有することが有効であることを伝えた。

エコツーリズム推進法については、エコツーリズム推進基本方針に基づき

- ・ 法律の概要
- ・ 全体構想に盛り込む内容

などについて伝えた。

●全体的なコメント

当地域については、地域のエコツアー事業者を支援し、地域内協議の場のとりまとめ役として期待される NPO 法人南富良野まちづくり観光協会があり、意欲的に活動している。

今後は、同協会が、事業者間の連携を図るとともに、町行政との意見交換と連携強化を図ることによって、計画的なエコツーリズムへの取組が期待できる。エコツアーについては具体的な事業を積み重ね、そして地域内の協働についてはあせらず、ゆっくりと町内の関係者との議論を重ねて取り組んでいって欲しい。

環白神エコツーリズム推進協議会

所在地 秋田県山本郡藤里町藤琴字藤琴 8(藤里町商工観光課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

意識啓発と推進に向けたネットワークづくり

白神山地の保全には「地元住民の理解と協力が不可欠」であるが、官と民、青森県と秋田県、各市町村単位で取組を実施しているため、「環白神」エリア一体での取組が出来ていない。

環白神エコツーリズム推進協議会は、行政を中心とした構成団体で平成 23 年 2 月にスタートしたが、「小さく産んで大きく育てる」を基本に、環白神地域の課題や推進の方向性をより多くの関係者で共有し、官民が一体となって推進していくことを目指していることから、環白神関係者を集め、本協議会の設立趣旨を周知するとともに、関係者の意識啓発と推進に向けたネットワークづくりを行いたい。

エコツアーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツアーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー		○
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながらか自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）

●場所

秋田県能代市字海詠坂 3-2（能代山本広域交流センター 第 1 研修室）

●エコツーリズム推進アドバイザー

NPO 法人信越トレイルクラブ 事務局長 木村宏 氏

●参加者

協議会正会員 5 町村長を含み、関係市町村職員及びガイド協会会員、一般参加者 合計 62 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

飯山市が取り組んできた「森の家」「着地型観光」「信越トレイル」など、地域の人たちが地域の魅力に気づき、「自分達の地域を自分達を守る」ことの重要性が、本協議会の目指す方向性と重なるため、「多くの人を巻き込んで、一つの方向に向かおうとする時に大切なこと」や「効果的なやり方」について助言いただきたい。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズムは、「地域住民の気持ちの高まり」があつてこそ推進できるものであり、いかに住民の気持ちを理解しながら活動するかが今後の課題だと感じられた。

意識啓発の一つの手法として、「ボランティア参加型」があるが、「地域住民を動かす戦略」には、地域住民の心を理解した活動が必要であり、「地域の心をひとつに！」が今後のキーワードになると思われる。

●今後の期待される効果

環白神地域の課題や方向性を、より多くの関係者で共有することで、官民が一体となった推進が可能となる。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

環白神地域フォーラムは、本協議会の活動の輪を広げるきっかけの場となってほしいと考え、実施しました。

行政主導で立ち上げた本協議会ですが、多くの人や組織を巻き込んで、ひとつの方向に向かおうとする時、リーダーとなる人材は、官ではなく民だと強く思っております。また、民が困ったときの官の力も必要だと感じております。

信越トレイルの整備には、試行錯誤しながら8年もの歳月がかかっております。

環白神地域も、フォーラムの継続や違った形での情報発信により、抱える課題や今後の方向性をより多くの地域住民で共有しながら、また地域住民みんなで汗を流しながら作りあげることが大事であると感じます。

木村先生、貴重なご講演ありがとうございました。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

木村アドバイザーからの地域へのアドバイス

世界遺産の白神山地をぐるり囲む県と市町村が中心になって設立された「環白神エコツーリズム推進協議会」が、地域の理解を得、エコツーリズムを推進する方策を模索している状況下、平成23年度エコツーリズム大賞を受賞した「信越トレイル」の取組をケーススタディーとして、「環白神地域フォーラム」を通じ事例を発表し、アドバイスをいただきました。

講話の内容は、自然資源、特にブナの森を有する長野・新潟県境の山脈（関田山脈）の、自然資源の掘り起こしから保全、県境にまたがる地域が故に培われた峠文化や交流の歴史の継承、そして環境に配慮した新たな観光の仕組みづくりをおこなった経緯や、国、県、市町村の領域を超えた連携、さらには官の役割と住民やボランティアの役割の棲み分け、そして協働の成果としての長距離遊歩道の整備の足跡、また、運用が始まって以降の維持管理の方法や、トレイルの活用事例、課題などのお話をさせていただきました。

また、そもそもの活動に至るまでの地域性、観光事業の変遷、特にスキー観光からグリーンツーリズム、さらには自然資源を生かしたエコツーリズムへの展開に至る過程では、アクティビティの開発やその提供者となる人材の育成にとどまらず、景観や森林の保全や、里山の再生活動に取り組んでいたことが地域の活力となり、信越トレイルという新たな連携事業が出来てきたことをお伝えしました。

地域住民の意識の底上げは、長年にわたるこれらの活動の成果であり、この意識の高揚こそが、市域を越えた活動の理解にもつながっている点は、環白神地域においても参考になるものではないでしょうか。また、白神地域は今でこそ多くの人々が知る場所ではあるものの、その実体は未知のものであり、周辺町村の名前すら知らない人が多い状況の中、環白神地域の個々の活動や、共通した思いを知っていただくことが大事ではないでしょうか。「白神山地」にまたは「白神の世界遺産」に何をしに行きたいか、地域からは観光客に何を求めているか、このあたりが「エコロジー」というキーワードでつながらなくてはなりません。

私が思うこと、きっと地域の皆さんも議論してこられたことではあると思いますが、

1. ダイナミックな白神を連想させるブナの森を訪ねたい。
2. 素敵なガイドに誘われて、ブナの森に入りたい。
3. 気軽に参加出来るエコツアーを実施してほしい。
4. ブナの森の上空を飛んでみたい。(ヘリコプターや気球など)
5. 奥山を大事にしている人たちの話を聞きたい。



6. 白神山麓の暮らしに触れてみたい。食文化や生活スタイルを味わいたい。

もちろんもっと多くの観光要素に触れたい、味わいたいという要望はあるでしょうし、緩衝地域や核心地域があり誰でも森に入っていけないことは承知しています。しかし、「白神山地」「白神の世界遺産」という言葉から連想される観光客の要望は、このようなところにあるのではないのでしょうか。

仮にこれが白神のエコツーリズムで提供出来るようにするという目標が設定されれば、これを地域の人たち、関係者がどのように作り出していくのかを模索していくことこそ、「環白神エコツーリズム推進協議会」の役割であり、目標ではないのでしょうか。1～6の例は私案ですが、地域の人やどんな人を、どんなメニューを揃えてお迎えしたいのか、どのようにもてなすのかを話し始めるきっかけがこの協議会設立の目的ではないのでしょうか。

幸いにして、周辺市町村の首長様の熱意も感じられ、会長をはじめ皆この事案に関心事ととらえていらっしゃることを感じました。首長の皆さんの牽引力を持って、大いに協議会の活動が盛り上がりますことを期待いたしております。

ブナの森は人の心に強く印象を残します。そして悠久の台地の象徴です。力強い自然資源のエネルギーを大いに活用ください。

地域の皆さんの森や里に暮らすことへの関心の高まりこそ、環白神のエコツーリズムの第一歩ではないのでしょうか。

岩手県二戸市

所在地 岩手県二戸市福岡字川又 47(二戸市役所総合政策部地域振興課)



(アドバイザー派遣申請の背景)

「宝興し」に向けた住民主体の仕組みづくり

二戸市は、平成4年から巨木や伝統行事物産や伝統技術、山や川、住民が価値あるものと認めたもの全てを宝と位置付け、この宝を生かしたまちづくりを市民とともに進めてきた。

知名度の高いA級観光資源は有しないが、食文化等地域に根ざした宝による観光の可能性を探るため、昨年10月、全国エコツーリズム大会を3日間の日程で開催した。

この大会2日目に実施したエコツアーにおいて参加者アンケートを実施したところ、高い評価を得た点、今後改善すべき点が浮き彫りとなった。

[課題解決に向けた取組]

- ・ ガイド人材の育成
- ・ ツーリズムの核となる組織の設立
- ・ ツアーの継続催行のための旅行事業者との連携

上記3点の取組を通じて、宝の活用による産業興し「宝興し」に結びつけるため、アドバイザーの助言を得たく本事業を申請するものである。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
ヒメボタル、雑穀に関わる食文化	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動	○	
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成24年2月16日（木）～17日（金）、3月16日（金）～18日（日）

●場所

岩手県二戸市

（第1回二戸市役所、カシオペアメッセなにやーと、天台寺、滴生舎）

（第2回カシオペアメッセなにやーと、天台の湯、稲庭岳）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板昭夫 氏

未来政策研究所 主任研究員 比田井和子 氏

●参加者

○第1回 平成24年2月16日（木）～平成24年2月17日（金）

ぎばって足沢70の会、えのみの会、よりゃんせ金田一、岩誦坊クラブ、浄門の里づくり協議会、九戸城ボランティアガイドの会、天台寺観光ボランティアガイドの会、二戸市観光協会、いわて銀河鉄道株式会社銀河鉄道観光、二戸市商工観光課、同地域振興課、未来政策研究所 計20名

○第2回 平成24年3月17日（土）～平成24年3月18日（日）

ぎばって足沢70の会、えのみの会、よりゃんせ金田一、岩誦坊クラブ、浄門の里づくり協議会、二戸市観光協会、いわて銀河鉄道株式会社銀河鉄道観光、二戸市商工観光課、同地域振興課、未来政策研究所 計16名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

○第1回

（1日目）

- ・ 二戸市長とアドバイザー、JTBによる東北観光博覧会に関する意見交換
- ・ 全国エコツーリズム大会について、関係者間の課題共有と解決に向けた取組方策を話し合い
- ・ 市内飲食店において、着地型観光に関する今後の展開について話し合い

（2日目）

- ・ 二戸市の観光戦略について、推進組織の設置及びフェノロジー・カレンダーづくりへの助言
- ・ 雑穀料理づくりの米田カヨさんの農家レストランを訪問、インタビュー
- ・ 天台寺及び滴生舎を視察

○第2回

(1日目)

- ・ エコツーリズム振興について、中核組織の必要性と役割、今後5か年のロードマップについて提案をいただいた
- ・ 稲庭岳周辺の観光振興について、地元ガイドとの意見交換及び助言をいただいた

(2日目)

- ・ 稲庭岳雪遊び体験ツアーに参加してもらい、地域の魅力やガイド手法の改善等の提案をいただいた

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズム大会における課題を共有することで、次の展開に生かそうという機運が高まった
- ・ 今後の展開についてやるべき取組内容が明確化できた

●今後の期待される効果

- ・ ツーリズムの核となる組織の設立をすることとなった
- ・ ガイド人材の育成のための研修機会を設ける
- ・ 東北観光博覧会を契機に継続的なエコツアーを旅行事業者と連携して進める



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

二戸市観光協会は、現事務局長の退職等による組織変更に伴い、2年目以降を1人体制で行うという局面を迎えるにあたり、今後、どのようにして二戸市の観光分野を伸ばしていくか、また協会を運営していくかを考えております。

今回、真板先生が作成してくださった観光振興ロードマップ～5年計画～において、基盤づくり、着地型観光受入体制づくり、二戸ブランドの育成という3つのステップを提案して頂きました。さらに各ステップにおける仕組み、仕掛け、仕切りについて、今後やるべき事を細かく示して頂いており、観光分野において経験の浅い私にとって非常に勉強になりました。

今後、二戸市の交流人口の増加のため、観光知識及びガイド技術の向上はもちろんの事、新たなツアー商品の造成、既存プログラムのブラッシュアップ、フェノロジー・カレンダーの作成等やるべき事が多々ありますが、関係各所と連携し協力を頂きながら、いずれは観光のスペシャリストと言われるように頑張りたいと思います。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザー、比田井アドバイザーからの地域へのアドバイス

●観光振興に取り組むための中核組織の起ち上げ

全国エコツーリズム大会の成功を地域の力として真に獲得していくためには、継続と、それを可能にするしくみが必要。二戸市の観光振興、地域づくりという目標にたつならば、全市的な観光振興を担う戦略会議とでもいべき中核組織の早急な起ち上げが必要である。

この組織は行政及び観光協会、各地区でプログラムを作成・実施している市民グループ等によって構成する。事業にはツアー・プログラム開発とともに物産開発も含む。

●エコツーリズムを軸とする観光振興のためのロードマップの提案

今回、これについてのアドバイスが求められた。提案したロードマップは5年を目途に、3つの工程(体制・人材、プログラム・物産開発、マネジメント)について、3つのステップ(基盤づくり、受入体制づくり、ブランド形成)によって目標を達成するというものである。

●ガイド・スキルの向上について

全国エコツーリズム大会における評価結果の一つは、インタープリテーションの方法、工程管理、リスク管理などガイド・スキルの向上の必要性である。そこで日本エコツーリズム協会のガイド研修講座など、ガイド研修の機会を設けることを提案した。

またガイドの仲間同士で実際にコースを歩き、各自の情報や意見を交換し、全体としてコースの魅力を引き出し、伝えるインタープリテーションを工夫し合う機会をつくるなど、仲間同士の研鑽も大切。

●フェノロジー・カレンダーの作成

二戸市の宝の旬、イベントや祭り、各地区のツアーなどを、すべて盛り込んだフェノロジー・カレンダーを作成する。1年間を一覧し、エコツアー・プログラムを開発していくのに有効である。エコツアー・プログラムを作成するなかで、宝の深堀を行い、ストーリー性のあるプログラムの開発を進める。

●雑穀食を食べられる場づくりとその情報

食は二戸市の観光振興において占める比重は大きい。「雑穀文化」を中心にすえているが、どこで雑穀料理を食べられるのかわからない。店のメニューの一つに加えるなどでもよいから雑穀料理を食べられる場所をつくる、あるいはその情報を入手可能にすることが必要。

●ヤマブドウ酢の試作について

物産開発として二戸市ではヤマブドウを素材とする新商品の開発が課題となっており、ヤマブドウ酢が候補にあがっていた。全国エコツーリズム大会を二戸市の前年に行った高島市には、伝統的な醸造法によって製造している400年の老舗酢醸造会社がある。真板が関わっている高島市商工会女性部ブランド研究会とも協力して試作品を製作、二戸市と高島市双方での販売をめざす。地域間の宝の交流による物産開発のモデルとなるのでは。まずはそのための資金探しの努力をする。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- これまで各地区のエコツアーや体験プログラムの作成、実施は、もっぱら地域振興課の担当であったが、今回、初めて商工観光課および観光協会の担当者が合流しての会議が行われた。「業」として、経済効果を求められる段階に達したということである。商工観光課、観光協会も、二戸市の観光振興は、その資源の特性から見てエコツーリズムが核となるとの認識を示され、二戸市の観光振興の方向については、すでに合意がなされている。早々に全市的な中核的組織を起ち上げ、既存の観光の観念に縛られることなく、宝探し20年の成果を存分に活用した観光振興を推進してほしい。「まちづくり推進委員会」というよき手本もある。
- 二戸市は20年間にわたり膨大な宝を発掘している。現在使われているのはまだ一部にすぎない。20年経ち、宝の資料集や写真データ等の存在を知らない人たちもでてきている。このようなデータベースを各地区のグループも含め全体で共有し、活用してほしい。エコツアーや体験プログラムの資源となる宝が見いだし得ると思う。
- データによって宝を知るのみでなく、次には現場に出て、地元の人と話をするなかで宝をつな



ぐストーリーもみえてくるはずである。中核組織は行動する組織であってほしい。

- 今後の二戸市の観光振興を担う人材の登場を期待したい。宝を観光資源として見だし、地域の人たちといっしょになって磨き、エコツアー・プログラムに仕立て、プロモーションから販売までもっていくことのできる人。エコツーリズム・プロデューサー、あるいはランドオペレーター、地域コーディネーター等、名称はともかく、地域の宝とツアー客のニーズをつなぐ人材。これが今求められている人材である。先のロードマップにしたがって進めていくなかで、そのような人が登場してくることを期待したい。

NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク

所在地 千葉県印西市木下 1708 (NPO 法人ラーバン千葉ネットワーク)



（アドバイザー派遣申請の背景）

市民団体の連携によるエコツーリズムの推進へ

台地に発展してきた千葉ニュータウンを取り囲むように里山地域が存在し、その里山を囲むように手賀沼・印旛沼・利根川がある当地域は、自然や歴史文化が豊かであり、また千葉ニュータウンには人口が流入しているため、まちとしての活気もある。

そのような背景から、近年スポット的に多くの市民団体がそれぞれの特徴をだして、おのおののフィールドで観光事業的な活動をしているが、それらを一括してまとめていく推進的な事業が存在していなかった。今回の申請でそれぞれの団体がエコツーリズムを理解し、力を合わせて、当地域の産業育成の為に行動を始めたなら地域活性化にお役に立てると考える。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
<p>(主な自然観光資源) ニュータウン開発のすぐそばに日本の里 100 選に選ばれるような豊かな里山文化が現存する。手賀沼・印旛沼・利根川に囲まれた豊かな水域とそれらによってはぐくまれた里山景観。利根川水運の拠点地だった木下河岸周辺の文化。成田の羽田を結ぶ線上にある国際性。</p>	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動	○	
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 10 日（土）～11 日（日）

●場所

印西市 印西牧の原ひょうたん山 亀成川上流部 山崎池 竹袋稻荷神社
別所調整池 別所熊野神社 ビックひな展示会場 木下貝層 竹袋調整池
銚子屋 吉岡家木下河岸跡 道作古墳群 小林鳥見神社 巴塚 小林牧場
松虫寺 アカガエルの里 吉高の桜 印旛沼鈴木さんの店 印西市結縁寺 草深公民館

●エコツーリズム推進アドバイザー

財団法人日本生態系協会 地域計画室長 城戸基秀 氏

●参加者

ラーバン千葉ネットワーク、白井市自治会、猫の綿畑、木下まち育て塾、
小林住みよいまちづくり、いにはのアカガエルの会、エコネット千葉、印西市
特別参加者 フォットギャラリーいにはの里、(株)プロズ、東京情報大学

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

(1 日目)

- ・ 当地のエコツーリズム素材と思われる場所やイベント・携わる市民活動団体を講師に見学していただくことを主眼に講師をご案内した。

印西牧の原ひょうたん山、亀成川上流部、別所調整池、別所熊野神社、山崎池
竹袋稻荷神社、ビックひな展示会場、木下貝層、竹袋調整池、吉岡家木下河岸跡
道作古墳群、小林鳥見神社、巴塚、小林牧場、松虫寺 等

(2 日目)

- ・ ラーバン千葉ネットワークのフィールドである結縁寺をガイド。「日本の里 100 選」に選ばれた理由を知っていただく。
- ・ 午後は印西で活動中の市民団体とともにエコツーリズムを知る勉強会を開催。印西でのエコツーリズムの可能性と立ち上げの方法を勉強した。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

今回、アドバイスいただいた中で、この地域の特質をあらわすキーワードをいただき（豊かな里山の自然・ふるさとの風景・歴史・訪れやすい立地・昔からの住民と新しい住民の存在・進んだ市民活動）改めて、自分たちが実施していることが客観的にみて観光資源として有効であることを認識したと思われる。

●今後の期待される効果

今回の活動を経て、各団体がエコツーリズム推進地域の仲間として認識出来たこと。自分たちの活動をどうエコツアーとして表現するかという視点が加わったこと。印西市役所の積極的参加が期待できそうだとしたこと。これらの効果は大きい。後はそれぞれが役割分担を決めて、まずエコツアーを意識しながら自分たちの活動に組み入れていくことがまず一歩だと認識できた。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考になった事項

- ・ この地の魅力をまとめた言葉 (豊かな里山の自然・ふるさとの風景・歴史・訪れやすい立地・昔からの住民と新しい住民の存在・進んだ市民活動)
- ・ 組織化することを最初に考えて、実行が遅れるよりも、とりあえず実行してみることを優先することをすすめていただいたこと。
- ・ この地がエコツーリズムをすすめるにあたってポテンシャルが高い地域であることを気付かせてくれた。

●その他感想

- ・ 今回の「エコツーリズム推進アドバイザー派遣」の実施によって、この地域のキーである都心に近い場所で豊かに残る里山の景観・文化・歴史を今現在保全したり紹介したりしている各市民団体と役所の地域振興課とを結びつけられる可能性が認識できたことは収穫であった。
- ・ 民間から立ち上げるエコツーリズムの可能性は大いにある地域であると思えるが、各地の例 (特に飯能市) を聞いていて携わってくる人や団体の経済的自立をどう確保したら良いのか不明な点が気になる。(収入確保)

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

城戸アドバイザーからの地域へのアドバイス

講義として、エコツーリズムの基本的な考え方や、エコツアーの種類、世界や日本のエコツーリズムの事例、印西市と同じ里地里山でエコツーリズムを行っている飯能市でのエコツーリズムの実例、エコツーリズムが地域に及ぼす効果等について紹介を行った。その上で、印西地区におけるエコツアーの実施に向けた地域の資源の状況と、本地域でのエコツーリズムを推進する際のポイントなどをアドバイスした。その内容を以下に示す。

●地域の資源

- ・ 豊かな里山の自然：まちのすぐそばに、比較的良好な状態で里山が残されており、川や農地、樹林、ため池などがセットで残されている。
- ・ ふるさとの風景：郊外の田園・里山地区には景観を乱す人工物が比較的少なく、緩やかな起伏をもつ美しい景観が残されている。
- ・ 多くの人が興味をもつ歴史：地域にある社寺には大木が多く残された風格のあるものが多い。また、松虫寺などエピソードを持つ社寺も多く、木下の河岸など、一般の方が興味を持ちやすい歴史的な資源がある。
- ・ 訪れやすい立地：都心から1時間の交通の便のよさ、成田空港に近く、外国人観光客を誘致しやすい、ニュータウンのすぐとなりに里山があるなどの、多くの方が訪れやすい立地にある。
- ・ 昔からの住民と新しい住民：地域に昔からの住民とニュータウンの新住民がおり、これがエコツーリズムを推進していく際の大きな力になる。特に、地域の歴史や文化を良く知る昔からの住民の方々に協力してもらうことが大切。
- ・ 進んだ市民活動：里山保全や歴史資源の保全、地域おこしなどに取り組む市民団体が多く、その活動も進んだものである。

●印西市でエコツーリズムを進めるには

- ・ 関係者が集まる場をつくる：当地区では既に様々な団体によって、エコツーリズム的な活動が行われていることから、これらの関係者が集まり、エコツーリズムについての共通理解を深めたり、地域の方針を決めたり、異なる団体（たとえば自然系の団体と、地域の団体など）が協力することによって、地域でエコツーリズムを推進するきっかけになると考えられる。
- ・ エコツアーをやってみる：当地域では、これまでガイドウォークやエコハイクをはじめとする様々な取組が行われている。これらの取組をエコツーリズムという考え方で捉えなおして、エコツアーとして実施してはどうか。その際ポイントとなるのは、自然や歴史文化の保全などの目的を明確にすること、取組を持続可能なものとするために、ボランティアではなく採算の取れる料金を設定し、料金に見合ったサービスを提供すること、何らかの形で地元の人に協力していただき、地域にエコツーリズムへの意識を広げていくことである。
- ・ 広報と集客：エコツアーとして採算の取れる料金を設定すると、無料や数百円程度の参加費のイベントと違い、広報と集客の重要性が高まってくる。里山地域でエコツーリズムを進める場

合、広報や集客を各団体が行うことは負担が大きいので、この部分は行政が担ってもらえると大きな力となる。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

本地域は、質の高い自然観光資源があり、地域を想い活動する人たちが既におり、人が訪れやすい立地に恵まれた、エコツーリズムに適した地域であるという印象を強く受けた。既にそれぞれの団体が、エコツアー的な活動を行っていることから、これらの団体が集まって、エコツーリズムについて共通の理解を持ちながら、各団体のイベントを進めていくことで、エコツーリズムが定着・推進される可能性があると感じた。

一方、エコツーリズムでは、一般的にはルールを設定したり、採算の取れる料金設定を行う（必須ではないが）といったことが考えられ、場合によっては既に各団体が行っている独自の取組を見直す必要も生じると考えられる。このような可能性・必要性も踏まえたうえで、当地域ならでのエコツーリズムの考え方、進め方を関係者が集い意見交換をしながら決めていくとよいと思う。そのようにして、印西独自のエコツーリズムを確立して進めていけば、日本国内だけでなく海外にも知られる里山エコツーリズムの先進地域になる可能性があると思われるので、ぜひ、取組を進めていただきたい。



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域の資源を活かした観光振興に向けて

上市町は今年度を観光元年とし、身近であるがゆえに気付かなかった地域資源を発掘したり、おもてなしの心を育むなど、これまでにプラスした取組を進めている。

そのような活動の中で気付いたのは、私たちはこんなにも豊かな自然資源を持っているということである。これを活かすためには、現在認定申請を進めている「森林セラピー基地」やグリーンツーリズムなどを有機的につなげていくことが必要であり、エコツーリズムがそれらをつなぐ役割を果たしてくれると考えた。

このようなことから、ぜひアドバイザーを派遣いただき、エコツーリズムの推進にあたっての組織づくりや役割分担等について支援をいただきたいと思います。

エコツアーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツアーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー		○
自然の営みにふれる観察会への参加		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動	○	
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 14 日（水）～15 日（木）

●場所

富山県中新川郡上市町

[視察箇所]

- ① 大岩地区（既存観光地であり、トレッキングルート〈森林セラピーロードとして認定予定）も有する）
- ② 白萩南部地区（エコツーリズムのフィールドとしての活用を検討）

※①、②はトレッキングルートで結ばれています

●エコツーリズム推進アドバイザー

山田 桂一郎 氏

●参加者

[アドバイス時] 8 名

観光協会、観光ワーキンググループリーダー（3 名）、商工会事務局長
上市町産業課長、産業課職員 2 名（観光協会担当者）

[研修会時] 80 名

観光協会会員、観光ボランティアガイド、行政職員ほか

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

(1 日目)

町内の観光の現状など地域課題及びエコツーリズム推進にあたっての地域内の自然観光資源について、担当より説明を行う。

(2 日目)

・現地視察

現地視察を踏まえ、フィールド環境の整備や組織づくり等についてのアドバイスをいただく。

・研修会

山田氏より、エコツーリズム、観光の現状及び観光を活用した地域振興のあり方についての講演をいただく。《演題「選ばれ続ける地域とは」》

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

「観光振興」と言うと、宿泊やお土産に関わる一部の人の話だと考えている人が多く、何故観光を進める必要があるのかという点で、なかなか理解が得られていなかったが、今回の研修会を通して、観光、エコツーリズムの目的が地域の活性化にあること、地域に暮らす人々が誇りを持って紹介できてこそ、初めてその場所に観光としての魅力が生まれるということを理解していただけたと思う。



●今後の期待される効果

1年間のワーキンググループ活動などの取組と今回のアドバイスを通して感じたことは、ただ観光振興と言ったところで、そこに明確なテーマやコンセプトがなく、観光地名を連呼するようなありきたりなPRを繰り返しても、観光客は言うに及ばず、地域に暮らす人達でさえ動かすことはできないということです。

エコツーリズムは単なる観光振興ではなく、そこに地域振興、環境保全といった要素が加わっており、この点を地域の方々にきちんと理解していただくことを第一に取り組むことで、失われつつある地域への誇りや熱意を喚起し、雇用創出さらに定住促進へと結びついていくことを期待しています。

具体的な取組としては、町内の自治会や学校などでもエコツーリズムに対する理解を深めていただくための説明会などを開催し、啓発を行うとともに、観光振興のワーキンググループに限らず、地域の若者も含め、様々な年代の方が意見交換をできる「場」を作っていきたいと考えています。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 初動においての意識啓発の重要性
- ・ 地域振興を伴わない観光振興は意味が無いということ
- ・ テーマ、コンセプトの共通理解が必要であるということ

●その他感想

- ・ 当町では、エコツーリズムの具体的な取組は未だ行っていません。平成 24 年度からようやく準備を進めていこうとしています。今回のアドバイザー事業を実施したうえでの感想として、まずはテーマ、コンセプトを決めて、それを基に啓発を行い、取組の全体構想（新たな雇用創造までの過程を明確にした）を形成し、取り組んでいくことで、方向性だけでなく出来上がる商品のイメージにも統一性が得られるものと感じました。大好きな場所を大好きな子供たちに誇りをもって残せるように取り組んでいきたいです。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

山田アドバイザーからの地域へのアドバイス

観光資源としては、自然環境から伝統、風習、生活文化まで地域性や個性が豊かな素材は多いのですが、どれも商品化されておらず素材のまま終わっています。まだまだ手付かずのものが多く、今後のエコツアー等の商品化の中で磨き上げれば十分に市場で認知される可能性は高いと思います。剣岳やアニメ映画にだけ頼るのではなく、これらも活用しながら進めれば上市町オリジナルのエコツーリズム推進が出来るのではないのでしょうか。その為にも、まずは関係者だけでなく住民が地域に対してもっと誇りと自信を持ってもらいたいと思います。

南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会

所在地 静岡県静岡市葵区井川 964 (井川観光会館内)



（アドバイザー派遣申請の背景）

明日の地域づくりのためのエコツーリズム

井川地区は、JR 静岡駅から 50 ㎞北に離れた自然豊かな山間地域で、南アルプスの麓としても市民に親しまれています。昭和 30 年代にはダム建設により人口は 8,400 人にまで増加しましたが、ダム建設が終わるとその人口は激減し、平成 23 年 9 月末現在、599 人（331 世帯）にまで落ち込み、過疎化、高齢化が進んでいます。

こうしたなか、「小さなことからでも、まずは始めてみよう！」の精神で、平成 20 年 7 月、この地に地元住民主体による「南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会」が立ち上がりました。

地域内には社会教育施設などもあり、小中学校の野外教育活動が盛んな場所でもありますので、設立当初から学校教育と連携したエコツーリズムに取り組んでいます。

その一方、立ち上げ当時から一般向けのプログラム開発とその提供に課題を抱えています。協議会としても、地域の観光協会や旅館・民宿組合などと連携したプログラムを開発したい思いもありますが、遠隔地のため、人材の確保が難しく、団体同士の連携も十分に図られていない現状です。

こうした経緯もあり、改善期を迎えている組織に少し新しい風を送り込みたいと考え、今回の環境省エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業への参加を希望しました。

このたび、派遣地域の選定を受けて、私たち協議会では、①地域みんなで「よし、やろうよ！」と思える意識啓発に繋げていくこと、②地域の観光資源を見つめ直すことによってそこから生まれる新しいエコツーリズム（観光）のあり方を発見すること、③他の地域の活動事例を交えた活動の評価と今後の方向性。この 3 つの目的意識をもって取り組みたいと考えました。

エコツアーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツアーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加		○
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時間を過ごし自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 3 月 12 日 (月) ~ 13 日 (火)

●場所

静岡県静岡市葵区井川 (井川観光会館、静岡市役所葵区井川支所 他)

●エコツーリズム推進アドバイザー

文教大学 国際学部 国際観光学科 准教授 海津ゆりえ 氏

●参加者

南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会、井川振興会、井川観光協会、井川森林組合、リバ
ウエル井川運営組合、井川旅館組合、井川民宿組合、企業組合らいちょう、井川農林産物加工所 (ア
ルプスの里)、NPO 法人大日倶楽部、静岡市環境局環境創造部清流の都創造課、静岡市経済局農林
水産部中山間地振興課、静岡市教育委員会事務局教育部教育総務課 (井川少年自然の家)、静岡市葵
区井川支所 合計 30 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

観光資源として大井川鐵道 (蒸気機関車・アプト式鐵道) の乗車視察を行うとともに、地域内で
実施している取組 (歴史探訪、つる細工、リース・苔玉づくり、そば打ち体験、雑穀食文化) を実
際に見ていただきながら、地域資源の活用のあり方などに対して助言をいただく。また、今後のエ
コツーリズムへの取組、コミュニティ・ベースのエコツーリズムの推進についても助言をいただく。

(1 日目)

大井川鐵道 (蒸気機関車・アプト式鐵道) の乗車視察
意見交流会

(2 日目)

井川本村地区内歴史探訪 (中野観音堂 : 千手観音立像)
里山文化 (つる細工、リース・苔玉づくり、そば打ち体験)
伝統工芸 (井川メンパ)
食文化体験 (雑穀、ヤマメ、鹿肉、地の食材)
全体研修会

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

まずは、海津先生を迎えるにあたり、「井川の食文化をいかにして伝えようか。」について考えた。井川の人間はみんな温かいおもてなしの心を持っている。新しい何かを考えることも大切だが、「いつもどおり、普段着のまま、お迎えしよう。」と考えて準備した。打ちたての蕎麦やヤマメの塩焼き、鹿汁などのメニューに加え、雑穀ご飯や家庭から持ち寄った漬物や煮物、自家製味噌などが食卓を彩った。こうした試みの結果は、この後の海津先生の講義のなかで、ある地域の成功例となった「みんなで確かめ合うプログラムづくり」としてご紹介いただいた。

井川地域に観光客を招くための最大の課題は交通アクセスである。静岡市内から井川へと通ずる主要の県道は、今年の台風で崩壊し、今も不通となっている。このため、海津先生には観光資源としての視察を兼ねて、大井川鐵道をご利用いただいた。JR 金谷駅から大井川鐵道に乗り換え、最大の魅力である蒸気機関車とアプト式鐵道を乗り継いで井川へお越しいただいた。乗り換えの待ち時間を含めると約3時間45分の鐵道旅である。この移動に係る時間を、私たちはついもったいないと感じてしまうが、海津先生は「井川の道は南アルプス手前で行き止まりです。それは目的意識を持って井川に来る人を迎えらるということにも繋がります。」という逆の発想であった。道路や交通手段の整った地域では、通過型からの脱却、滞在型の推奨に取り組むところも多いことを伺った。不便さという観光の不利的条件を、逆にどう活かすかという発想は、これまでにない新鮮な情報として受け止めることができた。

井川地域の懸案事項である地域の活性化について、海津先生から「地域が100あるとしたらそこには100通りの違う現状があります。エコツーリズムをやらなければと頑張るまえに、地域にあるものをいかにして将来へと伝えていくことができるのか…。そのためのエコツーリズムや観光であってほしい。」と助言いただいた。また、コミュニティの再生は地域活性化の一步でもあり、コミュニティを動かすためには、協働で何かをする、地域を見つめ直す、外からの情報に耳を傾ける。そのためのツールとして地域の観光やお祭りがあることの助言もいただいた。あらためて、地域行事の大切さについて考える機



会となった。

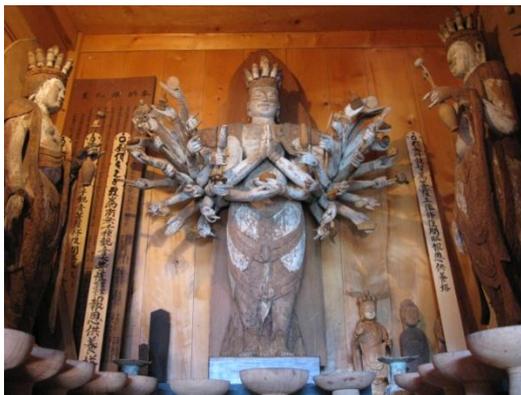
観光の5つの力（経済、教育、健康、交流、文化）について紹介があった。この力はエコツーリズムにも共通して使える旅のニーズであることを伺った。エコツーリズムとは「守り伝えたいものを掘り起こして伝えて、地域の糧となる活動」と定義された。井川地域では後継者の育成に悩んでいる。地域の宝（観光資源）を次世代へと受け継ぐための取組もしていかなければならない。

そのためには地域、行政、研究者、専門家、旅行業者等が連携し、エコツーリズムやコミュニティの基盤づくりを進めていくことの助言をいただいた。

●今後の期待される効果

エコツーリズムは、その地域の生活と密接に繋がっているものであることを再認識することができた。改善期を迎え、エコツーリズムの今後の方向性について悩んでいたが、海津先生の助言を受けて、新しさを求めることも大事であるが、まずは今あるものをどう活かしていくのかを考え、それをエコツーリズムに繋げていくことを確認し合えた。

南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会の他、地域関係団体や NPO 法人、行政関係課にも参加をいただき、井川地域の抱える問題全般と向き合う機会となった。今後もこうした交流の機会を持続しながら、地域活性化の基盤づくりを進めていきたい。



中野観音堂 千手観音立像
(静岡県指定文化財：平成 17 年 11 月 29 日)



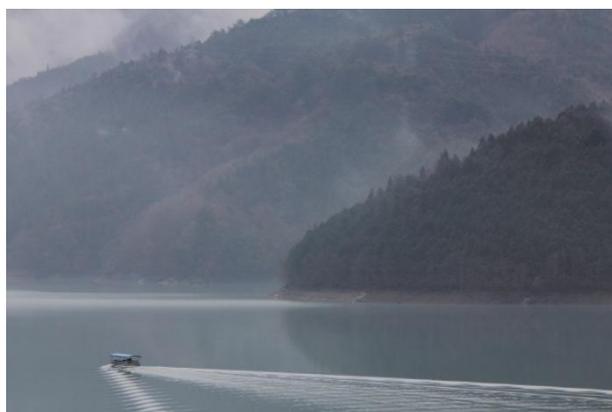
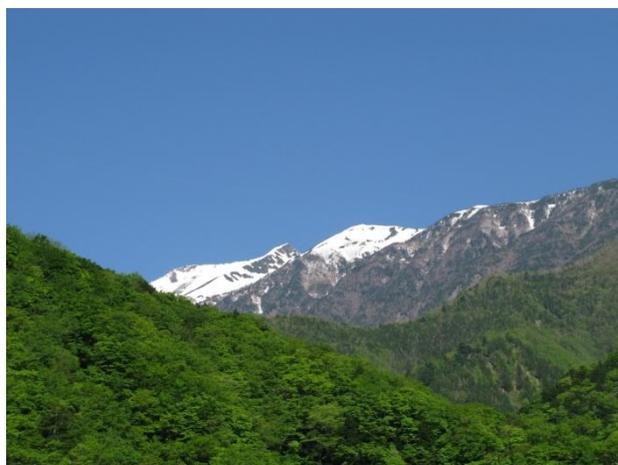
井川湖
(静岡市営リバウエル井川スキー場より)

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

静岡市を含む南アルプスに深く関係する山梨、長野、静岡3県10市町村では、平成19年2月、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会を設立し、南アルプスの世界自然遺産登録を目指し取り組んでいます。平成23年度、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会では、南アルプスの生態系・生物多様性の価値を磨くため、世界遺産と同じユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の人間と生物圏(MAB: Man and Biosphere)計画のもとで承認される生物圏保存地域(BR: Biosphere Reserves<国内呼称: ユネスコエコパーク>)への登録を目指し検討を進めています。ユネスコエコパークは、地域での乱雑な開発によって自然環境が壊滅されないよう、絶対に守らなければならない区域(核心地域)、教育活動などに活用ができる区域(緩衝地帯)、経済活動の基盤となる居住区域(移行地域)を明確にすることで、その自然環境を保全しようとする制度です。このようにユネスコエコパークは、自然と人間と

の共生社会の実現を目指し、自然環境の保全と利用の調和を図ろうとする国際的な取組として、平成23年7月現在、世界114カ国、580地域で登録されています。また、この制度の概念は、海津先生の講義のなかで説明のありました日本型(アジア型)エコツーリズムの考え方とよく似ていると思います。自然の守り方を一番よく知っている地域の人の生活圏を巻き込んで、その地域の活性化により守るべきところは守り、そして活用できるところは活用していきましょうという考え方で。このため、この区域内では核心地域を守りながら、観光やエコツーリズムなどを推進し、環境教育の普及や保全対策に取り組む活動が求められます。今回、アドバイザー派遣事業に選定いただきました井川地域は、まさにこの制度の想定区域内に位置しており、古くから南アルプスの山々とともに共生し、育まれてきた生活文化を継承している地域です。このようにユネスコエコパークを進めるうえで井川地域は重要な位置づけとなっていること、また、地域資源をユネスコエコパークのなかで活用していくためにも、井川地域のコミュニティ再生と経済活動の発展に向けて取り組んでいく必要があります。海津先生には、井川地域におけるこれからの交流推進基盤づくりに向けて、さまざまな地域の取組事例を交えながら助言をいただきました。これからもそれぞれの立場で各々が関わりと役割を保ちながら、点を線で繋げていくための活動を行っていききたいと思います。



(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

海津アドバイザーからの地域へのアドバイス

●交流会

主として井川地域の課題と希望について出席者より挙げてもらった。その結果、井川地区の自然や文化の豊かさ、伝えていきたいものの豊富さは誰もが誇りをもって感じており、それがエコツーリズム推進の原動力であることが明らかとなった。一方で課題（と感じていること）が山積していることも明らかとなった。それらは、

- ・ 交通条件の不利：山麓に向かう鉄道・道路の終着地であり通過交通がない
- ・ ダム工事の終結による人口の減少と高齢化
- ・ 雇用先の不足、住宅不足によるU I J ターンの受け入れ困難
- ・ 上記によるコミュニティ存続の危機

等であり、現在の日本の多くの中山間地域が直面している課題であった。

●研修会

研修会は上記課題群の共有から始めた。その上で、

井川地区の資源の豊かさを再認識すること

制約条件や直面している課題を冷静に踏まえて逆転の発想でプラスに転じること

限られた担い手人材であることからパートナーシップによる連携を図ること

ターゲットの絞り込みを戦略的に行い、効果的な活動を行うこと

等の重要性をアピールした。人口問題の解決は、エコツーリズムのみでは難しい。産業興しや特産品開発など、地域づくり全体の課題として取り組む必要があると思われる。

研修会に先立つプログラム体験の折に感じた井川の人々のホスピタリティと教え上手なことなどを踏まえ、滞在型プログラムの実施、宝探しとエコウォークの実施、静岡市内の都市部との連携による学校教育へのアプローチ等を提案した。

●全体的なコメント

井川地区は後背に南アルプスを抱く奥まった土地にあることから、自然・生活文化・歴史等のあらゆる面において、凝縮された資源をもつ土地柄である。大井川の上流域に位置し、かつては紀伊国屋文左衛門が山を所有し、街道も通っていたことから物流や商業にも関わりがあり、それが奥地ながら外に対して開かれた気風につながっているようであった。資源の豊かさは様々な物語を生み、住民に住む誇りを与えているようである。

出会った方々は誰もが勉強熱心で、資源についてよく調べており、かつ初心者にもわかるように説明する技術は年齢・性別・立場を問わず一貫した井川人の特徴であった。このことは井川地区のエコツーリズムに方向性を与えるものであろう。

交通の不利条件が多数の方から上がったが、離島等に比べれば条件は良い方である。「それでも井川に行く」という理由をどのように作るかがカギであると感じたが、限られた受入体制の中での活

動を考える限りにおいては、上限の集客数はさほど大きなものではないはずである。台風等に対して脆弱な車道を心配するのであれば、大井川鐵道をうまく活用し、移動もエコツアーに組み込むような方策が考えられないだろうか。

研修会のディスカッションで少々気になったこととして、複数団体間のコミュニケーションの問題がある。様々な経緯で諸団体が発生したと思うが、プロジェクトを立てて協働で取り組むなど、外側（市等）のサポートにより、連携の利点を活用できるようにするべきであろう。

2日目の朝からご用意くださった体験は、どれも心と地域自慢がぎっしりと詰まり、楽しくかつ忘れられないものとなった。あの観光会館前の広場で展開された、文化と食体験のピクニックのような賑わいは、一つの祭りのようであった。美味しく・楽しく・学んだ。いろいろと教えていただいたが、皆さん（とくに女性たち！）の指導力はインパクトがあった。楽しさは参加した人々に共有されたのではないかと思う。あのピクニックだけでも十分な魅力があり、井川に来てよかったと思えるものであった。大学や小中学校との定期的な交流等を通じて、里帰りのようなエコツアーリズム体験の場にできるとよいのではないかと感じる。

資源は豊富にあり、人材もいる。地域の総合力で来訪者を迎え、他の過疎化する地域への励みとなるようなエコツアーリズム推進地域になっていただきたい。ありがとうございました。

岐阜県 下呂市

所在地 岐阜県下呂市森 960(下呂市観光商工部観光課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域が持つ魅力の有効活用と協力体制の構築を

下呂市では平成 22 年度に「下呂市観光計画」を策定しており、その計画に基づいて近年の多様化する観光ニーズへの対応と地域に元気を取り戻すことを目的とした“地域が持つ本来の魅力を観光と結びつける”「着地型旅行商品」の造成を行ってきた。

しかしながら、「マスツーリズム」と「着地型観光」の理念は相反するものであり、「マスツーリズム」の発展と歴史を共にしてきた「下呂温泉」は依然として他の観光地よりもエージェントへの依存度が高いため、現在のところ各地域の魅力的な素材が有効に活用されていない状況であると同時に、地域の経済的な活性化の起爆剤とはなっていない状況である。

平成 24 年度これらの「着地型旅行商品」を採算ベースに上手く乗せ、「下呂温泉」プラスαの魅力として有効活用するためには、「マスツーリズム」と「着地型観光」の共存が必要不可欠であり、エージェントをはじめとした観光事業者による地域への理解と協力体制の構築方法、地域による観光に対して配慮が加味された商品造成等についての助言を頂きたい。

また、地域の魅力を掲載したフェノロジー・カレンダーの作成を予定しており、掲載内容・活用方法等についての助言も併せて頂きたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	○
(主な自然観光資源)	
・御嶽山 ・小坂の滝めぐり ・金山巨石群 ・清流馬瀬川(鮎)ほか	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動	○	
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながらか自然の恵みを体感する活動		○

(現在取り組んでいること)

(取組を検討していること)

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 27 日（月）～29 日（水）

●場所

岐阜県下呂市（下呂交流会館、ふれあいセンター）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

未来政策研究所 主任研究員 比田井 和子 氏

●参加者

下呂市観光計画実行委員会委員、下呂市観光計画プロジェクト委員会委員、

下呂市 他 合計 62 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1 日目）

平成 23 年度実績報告(各地域)

真板先生の特別講演、ヘルスツーリズム商品造成研修会

（2 日目）

金山地域巨石群視察、研修会

小坂・馬瀬地域合同研修会

（3 日目）

下呂・萩原地域合同研修会

野歩きコース・鳳凰座の現地視察

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

下呂温泉の主流である「マストツーリズム」と各地域が取り組んでいる「着地型観光」について、それぞれが今後の観光ニーズにおいて必要不可欠な要素であることを改めて認識したことにより、相互の連携体制がより一層強化された。

●今後の期待される効果

今回の事業によって“下呂温泉プラスαの魅力づくり”と“観光を利用した地域づくり”(着地型旅行商品の造成)の必要性を改めて認識させられたことにより、下呂温泉と各地域の連携体制が構築されるものと考えられる。但し、そのためには下呂温泉と各地域及び、旅行 AGT と各地域を結び、プロモーション業務や商品造成(コーディネート)に取り組む「ランドオペレーター」的な存在が不可欠であり、平成 24 年度から下呂市観光協会連絡協議会が緊急雇用補助金を活用して実施したいと考える。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

- ・ 旅行形態は、「マストツーリズム」と「エコツーリズム」の共存という提唱に対して異論もあるが、来客の多様化に向けては、避けては通れない道である。
- ・ 旅行形態は、まさに転機到来といった感じがある。人と違う満足度、差別化が求められている。旅行デザインの時代が到来した。
- ・ 地域力が注目されている。地域の宝とお客さんが満足する商品造成が必要である。
(→ここでいう「地域力」とは、自慢すべき宝・地域振興の名人・地域の知恵袋・わくわくドキドキ感を提供できる人(もの)などを指す。)
- ・ 「宝」は主観的価値、「資源」は目的に沿った手段である。
- ・ 地域ブランド(商品)開発は、人が来ることでイキイキさせて、うれしい思いにさせる。
- ・ 地域全体のストーリーがまさにフェノロジー(生物や食物など自然の営みを基軸とした年間暦等)である。このような有効活用は下呂市内でもすでに取り組んでいることは評価に値する。
- ・ 観光は政治に左右されやすいため、「二戸市宝を生かす町づくり条例」を制定して、観光に対しての姿勢をぶれることなく維持させる。
- ・ 外湯があると街並みはきれいになる。外に目を向けるようになってくるので、必然的にゴミのポイ捨てなどが少なくなってくる。外湯に対しては、どうして必要なのかそのコンセプトが重要になってくる。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザー、比田井アドバイザーからの地域へのアドバイス

●マストツーリズムとエコツーリズムの関係

マス・エコを対立させて捉えるのではなく、旅に対するニーズが変わり、旅の形態が変化したなかで、観光地としての魅力を高めるためには何が必要かと考えるべき。地域住民自身による「宝探し」を通じて発掘された地域が自慢とする宝を、地域の人々との関わりのなかで触れあえる仕組み、五感を満足させる商品や仕組みをつくっていくべき。観光によって地域の何を伝えたいのか。



●エコツアー・プログラム開発

各地区とも特色ある自慢の宝をもとにプログラムを開発しているが、もっと深掘りする、あるいは現在のプログラムに加えていくことのできる資源があり、改良/改善の余地について、地区単位でアドバイスを行った。

○資源の深掘りからストーリー化へ

各地区とも特色ある自慢の宝をもとにプログラムを開発しているが、もっと深掘りする、あるいは現在のプログラムに加えていくことのできる資源があり、他の宝との組み合わせによって地域のストーリーをつくることによって、現存ツアーの魅力の向上や、新プログラムの開発の可能性がある。



○各地区間をつなぎ、年間を通じたエコツアー・プログラムの開発

現在作成されている各地区のフェノロジー・カレンダーを集約、また追加し、下呂市全体のフェノロジー・カレンダーを作成、いつ訪れてもエコツアー・プログラムが実施される状況をつくりだしていくことが望ましい。

●ガイド

○ガイド・スキル

インタープリテーションの内容、歩きながらのガイドの仕方などの進行管理など、ガイド・スキルの向上が必要。

○ガイド料金

ガイド料金の設定：現在はガイド一人あたり料金であるが、ツアー、ガイドの質の向上の点からも、ツアー客一人あたりの料金設定のほうがいいのではないかと。

●ランドオペレーター機能の早急な起ち上げ

上記のアドバイス内容及び観光地としての魅力の向上と集客の拡大という課題を達成していくためには、旅行ニーズと地域の自慢を擦り合わせて顧客に対応したエコツアー・プログラム商品を作成し、販売・プロモーションから実施まで関わる機能を、下呂市のなかに早急に起ち上げる必要がある。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 観光が主要な産業である地域だけに、市民、行政、観光協会が非常な危機感と使命感とをもって取り組んでいることが印象深かった。その成果が 3.11 東北大震災と原発事故にもかかわらず前年比 3% 増の集客という結果だろう。現在の危機感を持続し、全市をあげて現在の活動を拡大・深化させ、「多くの来訪者が訪れる観光地での取組（マストツーリズムのエコ化）」の先進モデル地域となっていきたい。
- ・ マス観光とエコツーリズムを対立的にとらえる発想がいまだ存在することに、我々はむしろ驚いたが、マス観光業者の率直な危惧がいまだ存在することを認識し、エコツーリズムがマス観光地の歴史をもつ地域にあって果たし得る役割を普及していく必要があると感じた。下呂市では今回の講演によって宝探しの意義が理解されたように感じた。
- ・ 各地区の作成したフェノロジー・カレンダーのなかにはイベント・カレンダーの色合いが濃い

ものもあるが、エコツアー・プログラムの充実をはかるなかで、宝探しがさらに進められ、地区の資源のフェノロジー・カレンダーとしての厚みを持つてくることを期待したい。

- ・ ランドオペレーター（エコツーリズム・プロデューサー、コーディネーターなどの名称もあり得るが）の必要性は、下呂市にとどまらない。エコツアーの定常的な催行の実現というステップに進もうとする場合、必ずや直面する課題である。観光インフラの蓄積のあるぶんだけ、下呂市ではこのような機能の必要性の理解と体制づくりが迅速に進むことが期待される。
- ・ 下呂市の各地区は自然、歴史、文化にそれぞれ特色があり、個性が異なる。各地区での宝探しをさらに進め、地区ごとの特色あるエコツアー・プログラムや各地区の宝をつないだプログラムを開発していくことによって、下呂市全体をめぐる観光リピーターの獲得につながることを期待できる。
- ・ 是非、現在の危機感を持続し、全市をあげて現在の活動を深化していき、エコツーリズムによる既存観光地の再生・復活のモデルとなっていきたい。

兵庫県 宍粟市

所在地 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6(宍粟市 まちづくり推進部 環境創造課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域資源の活用、保全に向けた仕組みづくりを

宍粟市は、平成 17 年 4 月に宍粟郡 4 町(山崎町、一宮町、波賀町、千種町)が合併して誕生した。

市ではその後、平成 22 年 7 月に「宍粟市環境基本計画」を策定し、その具体的実行計画として、平成 23 年 3 月に「エコしろうアクションプラン 2011」を策定した。その策定経過において「地域の自然環境を保全するためには、住民が地域の自然の魅力や価値に気づき、それを広く発信することによって、持続的に環境保全に向けた作用が働く仕組みづくりが欠かせない。」との考えに至っている。

そのことから本年度、市と波賀地域(旧波賀町)の観光事業者でエコツーリズム研究会を立上げ、地域資源の活用方策や事業者間の連携に係る検討、エコツーリズム推進協議会の設立に向けた諸準備などを進めている。

また、市の観光振興に向けた基本理念や将来ビジョンを定め、総合的な観光政策を進めるため現在、観光基本条例及び観光基本計画を策定中である。

今回のアドバイスを契機としてこれらの取組の参考とし、本市におけるエコツーリズムの先進モデルを確立したい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
氷ノ山、しそう 50 名山、音水湖(カヌー競技場・関連施設)、滝(原不動滝公園)、スキー場、キャンプ場	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー		○
地域に特有な野生生物とのふれあい		○
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成24年3月1日（木）～2日（金）

●場所

兵庫県宍粟市 波賀地域

原不動滝公園楓香荘、原観光りんご園、音水湖カヌー競技場、戸倉スノーパーク、道の駅みなみ波賀 他

●エコツーリズム推進アドバイザー

財団法人尾瀬保護財団 企画課主任 安類智仁 氏

●参加者

波賀エコツーリズム研究会、宍粟市観光基本計画策定委員、宍粟市 計20人

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

観光資源の視察や関係者へのヒアリングを行って頂き、当該地域における今後のツアーづくりや市全体の観光施策の展開に向けたアドバイスを頂く。

(1日目)

- ・ 波賀地域における観光資源の視察
原不動滝公園楓香荘、原観光りんご園、音水湖カヌー競技場、戸倉スノーパーク
道の駅みなみ波賀 他
- ・ 波賀エコツーリズム研究会メンバーへのヒアリング

(2日目)

- ・ 尾瀬のエコツーリズムの現状と展望に関する講演
- ・ 波賀エコツーリズム研究会へのアドバイス
- ・ 宍粟市観光基本計画策定委員及び関係職員へのアドバイス

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

波賀エコツーリズム研究会では今回、実際の経験に基づくアドバイスを受けたことで、ガイド養成やエコツアー作りに向けて、より具体的なイメージを共有することが出来た。また、尾瀬の取組事例や成功・失敗体験を直に聞くことができ、意欲の高揚に繋がった。

宍粟市観光基本計画策定委員及び市関係職員への講義では、当地の特性を活かした観光振興に向けてエコツーリズムが非常に有効な手段となりうるものが改めて認識できた。また、ガイドという人的要因によって地域資源の魅力を高めることにより「今あるものを活かしながら新しい観光を創り出す。」という基本方針を共有することが出来た。



●今後の期待される効果

今回のアドバイスを契機として、波賀地域においてエコツーリズム推進体制を整備し市内のモデルとなるエコツーリズムの具体的実践をめざすとともに、これらの内容を市の観光基本計画に反映させ、将来的に市全域でエコツーリズムの推進が図られるよう条件整備を行う考えである。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

尾瀬におけるガイド認定制度の概要やその経緯を聞くことで、ガイド養成に向けた具体的な道筋をイメージすることが出来た。また、尾瀬で行われているエコツアーの事例や具体的手法を知ることができ今後のツアーづくりの参考となった。

●その他感想

アドバイザーの安類先生には長時間の移動でお疲れであるにも関わらず、懇切丁寧に真摯な態度で関係者へのヒアリングとアドバイスを行って頂いた。

それによって地域側も先生を信頼し、些細な疑問や日頃悩んでいることなども安心してお尋ねすることが出来た。

市の単独事業としてこのような機会をつくることは困難であり、環境省の支援によって、素晴らしいアドバイザーの招聘が実現したことに感謝したい。



(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

安類アドバイザーからの地域へのアドバイス

●楓香荘

駐車スペースも大きく、シーズン中はこの付近の来訪者が最初に立ち寄る場所であると思われる。視察時は冬季ということもあるが、館内では周辺の自然のようす・名所・散策コース・体験プログラム等の利用情報の提供が行われていないため、来訪者によっては短時間の立ち寄り・通過となってしまうと思われる。この付近を訪れた観光客が立ち去ってしまわないよう、コース整備・標識整備・利用情報の提供等を行い、観光拠点としての性格を持つ必要がある。

●原観光りんご園

幸福氏は「水源地としての森林再生」「若者受入による地域活性化」という、宍粟市エコツーリズム推進に必要なテーマに30年前から個人で取り組んでおり、今回の2日間の派遣期間中で「宍粟市の自然と人との関わり」を誰よりも意識した方であると感じた。氏が蓄積してきた知見を活かして、地域住民や宍粟市エコツアーに興味を持つ方を対象とした学習会を開催することで、地元の自然への興味づけや資料整備を図ることが望ましいと思われる。



●音水湖（おんずいこ）・カヌー競技場

OECに限らず、宍粟市を訪れた旅行者がカヌーだけでなく、様々な楽しみを市内で体験し満足できるように、地域だけでなく、組織間の連携を図る必要がある。

エコツアー運営にあたって安全管理は最も大切な要素だが、この点についてのノウハウを持っているのは、この地域ではOECであると思われる。多くの関係者が寄り添えるような目標を設定しつつ、お互いの得意分野を持ち寄って情報交換・交流を行うことで、活動内容を高めてはどうだろうか。



●道の駅「みなみ波賀」

「みなみ波賀」の建物内でのサービスは非常に充実しているが、より滞在時間を延ばして客単価を上げるためにも、建物周辺の整備や近隣観光との連携を図る必要がある。

建物裏手には手頃な清流があるため親水公園として施設整備を行うことで、滞在時間を延ばすことが可能だと思われる。

宍粟市の中心にある点を活かして、パークアンドライド方式の周辺観光地への周遊や、建物近隣での散策・散歩コースの案内も有効であると思われる。

ブルーベリー園の摘み取り体験と園地の拡大は、利用者増と滞在時間を延ばす取組として有効だが、無料化での運営を行ってみたいかどうかと思う（持ち帰りはNG）。



●フォレストステーション波賀

数多くの施設が点在し多目的な場所になっているため、利用者の目的も日帰り入浴・宴会・ホテル宿泊・キャンプ・自然体験・登山と様々だと思われる。客層とニーズに合ったサービスとプログラムの提供は言うまでもないが、受入側のビジョンを明確にする必要がある。

ビジョンを明確にする作業において、客層やニーズの把握、満足度の把握だけでなく、この場所の自然の把握を行うと、より充実したものができると思われる。特に「風景・眺め」「動物」「植物」については1年を通して観察・記録すると良いと思います。特に動物は来園者にとって驚き・喜び・自然を感じる事につながるなので、園内で見られた動物のリストや写真を用意してみても思う。



楓香荘と同様に、来訪者への情報提供を充実させる必要があると思われる。

敷地の中心にある東山温泉メイプルプラザは、館内の雰囲気と周辺の自然の雰囲気とがマッチしていないため利用者層も分かれていると思われる。フォレストパーク波賀の来訪者にどんな体験を提供したいのかを明確にする必要がある。

●全体的なコメント

今回の視察で訪れたのは数箇所だけでしたが、それぞれに共通する課題に「滞在時間を延ばす」、「連携」、「情報提供」があったと感じました。宍粟市の来訪者は大きく分けると①マイカー利用者②学校団体だと思のですが、どちらの場合においても「点を目指して来た来訪者を面で受ける(広げる)」方法を考えることが滞在時間の延長につながりません。面で受ける(広げる)方法は、その場の条件によって異なると思いますが、道の駅「みなみ波賀」での拠点整備・周辺環境整備がその一例です。また拠点に車を停めて宍粟市内を周遊・散策できるよう、パーク&ライドやパーク&ウォーク方式での観光も適していると思います。



「連携」については思想や活動目的の違いなどもあり、必要に応じて考えればいいものだと思いますが、お互いに足りない部分を補い合い、顧客満足度を高め、リピーターを作るためにも積極的に取り組みたいところです。宍粟市エコツーリズム研究会とその事務局は、連携の仲介役としての機能も必要とされてきますので、まずは個人や組織の持つ特徴や個性を提供しあう場を設定してみてもどうでしょうか。「宍粟市の自然の理解」、「インタープリテーション」、「ツアーの安全管理」、「接客」といったテーマで勉強会を設け、それぞれに適した個人や組織に講師となってもらう事で、情報交換・スキルアップ・相互理解といった効果が期待できます。閉鎖された勉強会ではなく、そこに地域住民や一般客が加われば客観的な評価もできると思います。

話が前後してしまいましたが、宍粟市エコツーリズムの基本構想や計画を考える上で、様々な分野の方々の参画が必要となってきますが、そのはじまりになると思います。

「情報提供」には、提供する情報の内容、方法、対象、それをやる意味まで含まれています。現状では宍粟市エコツーリズム研究会の活動がほとんど発信されていないので、まずは一つのウェブサイトやパンフレットに研究会活動を掲載してみてもどうでしょうか？また宍粟市の観光パンフレットは豊富ですが、観光スポットが地図に示されているものが大半で、カレンダーで表現されているものはありません。見ごろ・食べごろといったイベント・カレンダーに、宍粟市の自然や動植物の自然暦や、地域で行われる細かな歳時記を加えた、宍粟市カレンダーを作成・配布するのも効果が高いと思います。「情報提供」というと、つい「方法 = 多様なメディアの使い分け」を意識しがちですが、伝え方の工夫についても色々なアイデアを出し合ってみてください。

名峰景観ツーリズム・シンポジウム実行委員会

所在地 鳥取県西伯郡大山町赤松 2459-364(グラウンドワーク大山蒜山)



（アドバイザー派遣申請の背景）

魅力的なエコツアーの商品企画を進めるために

中国地方の最高峰である大山は、伯耆富士、出雲富士と呼ばれる美しい火山峰で、中国地方で唯一、深田久弥の「日本百名山」の一つに選ばれている西日本を代表する名峰である。大山を中心とした鳥取県西部地域とその隣接地域では、数年前より豊かな自然環境を活かしたエコツーリズム事業を推進しているが、未だ魅力的なエコツアー企画や商品が完成しておらず、事業が経営軌道に乗っていない状況である。

大山を含む鳥取県西部では 2013 年秋にエコツーリズム国際大会の開催が決まっており、エコツーリズムの推進とともに、魅力的なエコツアーの商品企画を進めるために、富士山や羊蹄山、岩手山、鳥海山、浅間山などの名峰地域で実践的にエコツアーを展開する実践者をアドバイザーとして派遣していただきたいと考えている。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	○
(その他)	
日本の美しい自然と風景の保全再生を進めるため、地球環境時代の職業・ビジネスを育てるため	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源) 大山、蒜山など名峰の眺望・景観、火山地形、ブナ林・ミズナラ林、湿原・草原、里山雑木林などの植生、オオサンショウウオなどの天然記念物、自然生態系、牧場や山里などの里山・農村景観、大山寺・大神山神社、大山道、宿坊など自然文化遺産、神話・伝説など大自然を背景とした物語り	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動	○	
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動	○	
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動	○	

(現在取り組んでいること)

名峰の眺望・ビューポイントを巡る名峰景観ツアー
 名峰山麓の自然文化遺産と山里の生活を訪ねる田舎暮らしツアー
 大山道(古道)を歩いて名峰の自然と景観を楽しむ山里トトレッキングツアー

(取組を検討していること)

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 20 日（月）～21 日（火）

●場所

鳥取県米子市（鳥取県西部総合事務所など）、視察は鳥取県大山周辺

●エコツアーリズム推進アドバイザー

NPO 法人富士山エコネット 代表理事 三木廣 氏

NPO 法人浅間山麓国際自然学校 事務局長 橋詰元良 氏

●参加者

実行委員会関係者、および、エコツアーリズム推進団体、エコツアー実施団体関係者、環境保全型観光・自然体験型環境学習・名峰の環境に興味のある一般人（50 名程度）

グラウンドワーク大山蒜山、蒜山ガイドクラブ、NPO 法人大山日野川自然の会、晴れの国野生生物研究会、真庭自然を観察する会、フィールドアスレチック森の国、ハローリーリスト、(株)環境アセスメントセンター、(株)チロル観光、大山自然歴史館、大山観光局、大山中海観光推進機構、日野郡いきいきツアーリズム協議会、奥大山古道保存協議会、NPO 法人養生の里、真庭遺産研究会、岡山オオサンショウウオの会、大山青年の家、大山寺の宿坊など宿泊施設、皆生温泉の温泉旅館の関係者など

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

三木氏は昨年 5 月、11 月に大山を視察、橋詰氏は昨年 11 月に大山を視察

(1 日目)

- ・ 実行委員会の戦略会議にアドバイザーとして出席

(2 日目)

- ・ 名峰景観ツアーリズム意見交流会にアドバイザーとして出席
- ・ 実行委員会の役員会にアドバイザーとして出席
- ・ エコツアーリズム講演会に講師出演

《テーマ：名峰大山の自然と景観を活かしたエコツアーリズム事業の展開を目指して》

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

大山地域においては、これまでの研修会や講演会、シンポジウムなどで「エコツーリズム」という概念は、定着しつつあり、地域の活性化や資源の掘り起し、ふるさとの再発見につながるという期待感がありました。

その一方で、これまで紹介されていた事例は、屋久島であったり、知床であったり、小笠原であったり、大山地域のような街や農村域に近い環境をフィールドとしてものでなく、人里離れた自然域を訪ねるガイドツアーであったことから、あまり活動の参考になっていませんでした。

また、ガイドツアーでは、少数のガイド団体だけに儲けが発生し、地域の活性化ははかれないことはもちろん、資源である自然が観光客によって踏みにじられるというマイナス部分も見えており、エコツーリズムは難しいという絶望感もでていました。

そういう中、今回、大山と共通の環境をフィールドで活動する実践家をアドバイザーとして派遣され、実践事例をもってエコツーリズム事業の説明や助言を受けたことによって、大山地域で展開すべきエコツーリズムのイメージが具体的に見えるようになり、今後いっそうエコツーリズムに取り組もうという意欲が高まりました。

●今後の期待される効果

地域的な差異はあるものの、同じく名峰を背景およびランドマーク、地域のシンボルにもっていることから、情報交流などでノウハウを共有することが可能になりました。

とくに浅間山麓で展開しているロングトレイル事業については、大山地域で取り組んでいる大山古道の復元・利用にも大いに参考になり、今後、大山地域および富士山地域でも同様のロングトレイル事業に取り組むことになりました。

また、このロングトレイル事業は、全国の名峰地域とのネットワーク構築を進めにあたり、有効な手段になるということで意見が一致したことから、浅間地域、大山地域、富士山地域など名峰地域を中心に日本の自然と風景を楽しむ「歩く観光」を取り入れた体験型エコツーリズム・プログラムを開発していこうという話になりました。

農山村地帯が広がる大山地域においては、広く静かで昔ながらの田舎の風景が残されており、名峰を背景に里山の環境をゆっくりと歩くロングトレイルは農村型エコツーリズムを進める上に大きな魅力になると期待されます。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

エージェント（旅行者）との関係、歩く観光に人気が高まっていること、ツアー・プログラムの開発、ガイドの管理、体験型観光の需要の高まりなどについて、先進的かつ実践的な活動を通じての話には説得力があり、これから大山地域において本格的にエコツーリズム事業を展開する上で大いに参考になりました。

とりわけ、エコツーリズムを展開していく上では、優秀なガイドの存在が不可欠といわれておりましたが、富士山エコネット代表の三木氏の話からは、ガイドも大切であるが、ガイドの個人的技能や知識に頼るのでなく、しっかりとしたガイド・プログラムをつくって、ガイド組織全体でチームワークをもって事業に取り組むことが重要という話は、たいへん参考になり、共感もてました。

●その他感想

今回、講師に富士山や浅間山の山麓でエコツーリズムを実践的に展開する団体の代表を招いて現地指導や講演会をおこないましたが、当初、これらの地域は富士五湖や軽井沢などの有名観光地を有し、首都圏にも近いことから、集客面において大山地域より有利な状況にあると考えていました。しかし、実際に助言を受け、話を聞く中で、大都市に近い分、開発も進み、自然生態系はもちろん、昔懐かしい景観や歴史的資源も失われていることがわかり、大山地域は資源面において、富士山や浅間山の山麓よりもエコツーリズム事業を展開する上において有利ということもわかりました。

後は、この残された自然や景観、文化資源を上手く活用したエコツーリズム・プログラムをどのように開発し、それを運営する人材育成や運営組織づくりをどう進めていくかであり、今後も富士山や浅間山などの名峰地域と情報交流を進めながら取り組んでいこうと考えています。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

三木アドバイザー・橋詰アドバイザーからの地域へのアドバイス

NPO 法人 富士山エコネット

代表理事 三木 廣

当団体は環境に配慮したエコツアーを開始してから昨年で 12 年目、NPO の認証を受けてから 7 年になる。その間、美しい富士山を後世に引き継ごうという理念のもと小中高生を中心とした団体教育旅行で、毎年約 100 団体以上、平均 1 万 8 千人以上の方々がエコツアーに参加されている。近年はエコツアーと連動しての事前学習や講演会が増え、その数、年間 20 団体に及ぶ。富士山を核とした周辺の自然資源のすばらしさを、現場において体感し理解していただくという



エコツアーの、リピーター、新規も含め教育旅行としての需要は今後ますます高まることが予想される。年間のべ 800 人のインストラクター（登録約 50 名）の人材育成や、ツアー内容のより充実など、学習と実践を同時並行させながら、日々研鑽している。また、私自身も、地元の観光連盟、観光協会、民宿組合の理事であり、自然資源を生かした当団体のエコツアー誘致を、宿泊客の増加など地域全体の観光振興と連動させ、エコツーリズム推進において常時連携している。

このたび、大山蒜山でエコツーリズム事業の展開に際し、具体的提言をとということで、当団体の推進してきた主にエコツアー事業を参考にさせていただければと、お受けした。

環境に配慮しつつ、自然資源を生かしたツアーで地域振興を推進していくというエコツーリズムの基本的理念を軸に据え、当団体の今までの活動が少しでも参考になればと、ツアーにおける最も基本的と思われることを中心に話させていただいた。

大山蒜山は豊かな自然、景観と歴史的にも由緒ある場所に恵まれている。われわれの展開する富士山に比べても、まだまだ開発されていないところも多く、懐かしい里山の風景が随所に見られる。

ツアーを行うに当たり、もっとも大切なのはこの地の特徴を熟知している地元を中心とした方々の熱意である。この地の自然、文化、歴史の素晴らしさを全力で参加者の方々に伝えようという気持ちはおのずと参加者にも伝わり、迫力あるツアーになる。また何種類かのツアーのルート、内容を構成、吟味し基本的マニュアルを作成し、ガイドの方々がそれを共有することである。一団体の参加人数が多くなったときに、基本事項を共有していないと、ガイドごとにばらばらの説明が行われ、お互いの不公平感や質の低下が顕著になってしまう。当団体でもこの点は徹底しており、ガイド個人の自慢げな知識の披瀝にならないようおのおの自覚していただいている。ただ、面白くなくてはツアーの魅力も半減してしまうので、基本以外は個人の特徴を生かした自由なガイドを奨励している。またツアーの話の中では、必ず現場に即した環境の話を取り入れるようにしたい。(当団体では年間平均 10 団体以上のクリーン活動を別に実施しており、現状の理解に努めている。)

昨年 11 月に大山蒜山の一部のツアーに参加させていただいたが、大山蒜山でも自然、文化、歴史を取り入れた何種類ものツアーを実施しており、あとはいかに集客し、それぞれのツアーをより魅力的にしていくかだと思う。集客では当団体でも年間 5-6 回は紹介（一般には営業）で関東、関西を中心に学校や業者をまわっている。いかに内容がよくても多くの人知らなければ参加が望めない。

限られた時間だったが、一番基本的なことは熱意を持ってお伝えできたと思う。会議、打ち合わせその他でお会いした地域のかたがたの多くが積極的に熱い思いを語っていらしたので、この思いをぜひ実践の場で生かしていただきたい。その過程でお互い情報交換をしながら、多くの方々に自分達の地域のすばらしさを体験していただき、参加者の多くが自然や文化を守ろうという気持ちになっていただく一助になればと思う。

NPO 法人浅間山麓国際自然学校

代表理事 橋詰 元良

今回、大山地域を中心としたエコツーリズム事業を展開するにあたっての体制づくりや商品づくりの参考になればということで、事例紹介的な講演を実施させていただきました。

私が代表を務める NPO 法人浅間山麓国際自然学校は浅間山を中心にその山麓を活動エリアとしてエコツーリズム、グリーンツーリズムを展開しています。ここ大山地域は大山を中心に浅間山麓と類似した環境にあり、まさに我々が実践していることがそのまま使えるのではないかと

いう印象を受けました。さらにこの地域は一歩足を延ばすと日本海に通じているという立地から、もっと面白い視点でエコツーリズムが展開できるのではないかと感じました。

浅間山麓国際自然学校は、群馬県と長野県の両県に接し、県をまたいだ広域エリアとして活動しておりますが、ここ大山地域も鳥取県・島根県・岡山県とかなりの広域エリアで活動できる地域であり、広域性を持つことによって来訪者を飽きさせない、リピート率の高いエコツーリズムの展開が図れる非常に興味深い地域であると感じました。

この大山地域には大山王国や大山ツアーデスクなど現在様々な活動団体が存在するようですが、それらの団体の連携をさらに強化し、新たな団体を引き入れながらその輪を大きくしていくことが重要であり、それには中核を担う地元密着型団体の存在が必要不可欠であります。

今回参加者の皆さんとお話させていただいた中では、みなさん大山の魅力に自信を持っておられて「この自然豊かな大山地域にもっと大勢の人に来ていただきたい！」「こんな素晴らし所はほかにない！」と非常に地元に着愛を持っておられて、地元を誇りを持っておられると感じ、ライフスタイルとして楽しんで活動されていると感じました。各活動団体の方々は全てそうした信念のもと、背伸びをせず活動をしています。同じ信念を持つ者同士、まずその活動団体を同じテーブルにつかせて共通認識のもと、効率よく活動できる体制が必要であり、その中核となる事務局的団体が



必要です。この地域においては決して難しいことではないと思います。既存の活動団体が中核となるよりは、新たにできた団体が、連携をコンセプトにその中核を担うのも一つの考え方であると思います。まま協議会や連絡協議会といった広域対応の団体がありますが、これは主体不在になってしまうので、何年かすると形骸化して機能しなくなってしまう可能性が大です。

この大山地域では、新たに連携をコンセプトとした活動団体を設立した方がいいかもしれません。この地域なら、この地域の方々なら簡単にできると思います。その団体を作る意味でも、またより広域的なエリアを設定する意味でも、今回浅間山麓国際自然学校が連携をもとに始めた事業「浅間ロングトレイル」について参加者の皆さんにお話しさせていただき、またいろいろ考えていただきました。

この浅間ロングトレイルとは浅間山を中心にその周りに国道、県道、林道など既存の道路を活用して約 180km の歩く道（トレイル）を設定し、大勢の来訪者にその地域特有の文化や歴史、自然を感じながら歩いていただくという事業を展開しています。これは少なくともその浅間山周辺のルート上の団体は連携せざるを得ない状況になります。それらの団体をまとめ中核を担っているのが、浅間ロングトレイルの事務局を持っている浅間山麓国際自然学校です。大山地域も大山を中心に自然、文化、歴史を堪能できる素晴らしいトレイルルートが設定できます。ぜひ新たな連携のツールとして「ロングトレイル」構想を大山地域の皆さんで検討していただければ幸いです。

この大山地域には、人・自然・資源が豊富にあります。これをどう使っていくか？どんなツールを使っていくか？今が地域一体となって知恵を出す時期であると思いますので、ぜひいろいろなアイデアの中から日本のニューツーリズムのモデルとなるような地域にしていきたい、またなれる地域だと思っておりますので、今後も頑張っていたきたいと思っております。微力ながら私もお力になればと考えております。

南大東村教育委員会

所在地 沖縄県島尻郡南大東村字南 144-1(南大東村教育委員会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

「島まるごとミュージアム」づくりに向けて

南大東島は、「島まるごとミュージアム」をコンセプトとしてエコツーリズムの推進に取り組んでいる島として、少しずつ注目を浴びる地域となっている。これまでは、特異な自然を魅力のベースとして島の魅力を発信してきた。

近年、観光において食への関心が高まっているが、本村へ訪れる観光客も例外でなく、アンケートでも「地元の食材を利用した食事」を求める結果が出ている。食は土地の自然を縦糸に、文化を横糸として喩えられている。そこで、本村では、食文化を新たに発掘、発見、発信していくための食の宝カレンダーの作成を行うため、昨年からの食のワークショップに取り組み始めた。

今後は、その内容をどう生かして、カレンダー作りを行い、どう活用していった、地域づくりに結びつけ、エコツーリズムの新たな魅力として、村内外に発信していく方法を検討していく必要がある。このようなことから、今回エコツーリズム推進アドバイザーを利用し、取組体制、地元住民、観光業者、行政の役割分担などを明確にしたいと考えた。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	○
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	
地域資源を通じて、地域を誇り、発信する人材を育成したい。	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること) 農業体験(サトウキビ刈り体験)で刈り取り、収穫、黒糖作りを行う		
(取組を検討していること) 島の食を体験する		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 19 日（日）～21 日（火）

●場所

視察場所 南大東島の宝さがし成果確認

- ・ 基幹産業サトウキビの製品荷役風景
- ・ 戦跡・新ホテル等
- ・ ワークショップ及びヒヤリング場所
- ・ 南大東村離島振興総合センター
- ・ 他村内各地（村内ホテル内会議室・観光プラザ・漁業組合・食堂など）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板昭夫 氏

●参加者

生活改善グループ（9名）、南大東村（10名）、商工会（2名）、観光推進協議会（4名）
漁業組合（2名）、ホテル関係者（2名）、観光プラザ（3名） 合計 32名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

- ・ 関係者全員を集めた講義的な形をとらず、観光関係の軸となる方々を個々に視察訪問し、きめ細やかなヒアリングを行いながら、食のフェノロジーの活用方法のアドバイスと新しい観光ツアーなどのアイディアのアドバイスを行った。
- ・ 食のフェノロジーをより完成するため、カレンダーの内容をワークショップやヒアリングをしながら確認。現在作成しているカレンダーを広げ一つ一つの食材を季節ごとに間違いがないか、また、他の食べ方、活用方法はないかなど話し合った。
- ・ 島の基幹産業であるサトウキビの刈り取りシーズンのダイナミックな作業を視察した。又、最近沖縄県内で保存活用が見直されている戦争遺跡であるが南大東島でも貴重な戦争遺跡があるので視察してもらった。（今後の観光プログラムに活用出来ないか見てもらった。）
他に、新しく出来た観光プラザ、ホテル、漁業組合を視察した。

(1日目)

- ・ 観光推進協議会が設置したプラザについて詳しい内容をヒアリング及びアドバイス

(2日目)

- ・ サトウキビの刈り取りと製品の荷役作業視察
- ・ 島の新たな宝として発見された戦争遺跡の視察
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーの活用方法について

- ・ 島のビロウ林内の動植物の多様性調査をエコツアーとして組み込み方法について論議
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーの内容の確認

(3日目)

- ・ 食のフェノロジーを活用した食の提供、プログラムをアドバイス
- ・ 南大東島唯一の観光業者関係者に、南大東島の現在の観光内容のヒアリング
- ・ 誘客のためのエコツアー・ランドオペレーションについての打ち合わせ
- ・ 観光関係の産業課へ挨拶とフェノロジーの内容経過を報告

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 島でこれまで行ってきたツアーに何が足りないのかが明確になった。
- ・ 食のフェノロジー・カレンダーが大いに利用できるものだとわかった。
フェノロジー・カレンダーは、「季節暦」でもある。島の気候、海や動物、植物などの自然の移り変わり、それに応じて変化する農業、漁業、生産活動、祭りや祭事、食など1年間のカレンダーとして表すものであること。
- ・ 季節、年間を通した食材の確認が出来たことで、新しい商品作りが出来やすくなる。
- ・ 新たな島の魅力を生み出す方法のヒントがあった。
- ・ 食に対しては、多くの人の感心があることがわかった。
- ・ 食を通して生まれる連携は、けして難しいことではないような気がすることがお互い理解できたのではないか。
- ・ 一人一人の役割が明確になりやすい。
- ・ 生物多様性の調査など、目的をもった旅ともいべき新たなタイプのツアー・プログラム開発の可能性が示された。
- ・ 島の受入体制としてランドオペレーターなどの必要性を認識した。



●今後の期待される効果

「食」は、素材を作ったり、獲ったりしてくれる人たち、料理をしてくれる人たちの関わりによって生まれるものであり、食と関わるということは島の人たちの紹介も行い得るものである。

「自然と食」「文化と食」「人と食」というように食はあらゆるものと表現が一緒に出来る。南大東島は、現在観光の第2段階を迎えようとしており、この「食のフェノロジー・カレンダー」を作成することが新たな観光戦略としての「柱」になり「食」と「人」を結びつけ、南大東島の魅力を立体的に発信していくための重要なツールとして位置づけができる。

そのカレンダーを活用すれば、地域活性化が図られるだけでなく、地域全体を巻き込んだ、料理講習会、試食会を開き、新しいツアーメニューの開発が促進されて島の新たな魅力が発信できる。

他に、学校給食として活用したり、島の新たな特産品の開発に役立つ。また、観光推進協議会が中心になって、島の受入体制づくりやツアー・プログラムの開発への取組の推進が図られる。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

岩手県二戸市で昨年開催された、エコツーリズム大会で「食」を中心としたツアーが大きな評価を得たということで、南大東島でもぜひ「食」を中心として地域活性化やツアーを企画したいと思った。

また、琵琶湖西側に位置する高島市の事例として「食のフェノロジー・カレンダー」を作成したことによって、トレッキングコース作りと、そのコースを掲載した「高島うまいものマップ」が作成されたことにより、通年観光への方向性が見え、夏がハイシーズンであったが、うまいものが「冬」にあるということが明らかになり「食」をテーマとした観光が浮上したという。南大東島でも、通年を通したツアーの企画を考えるためのいいヒントになった。



●その他感想

本村は、体験ツアーなど魅力的な資源を中心として、観光客の数も増え始め、島を訪れる人が増えてきた。しかし、今の観光の流れは、旅行代理店指導型から地域指導の「着地型観光」へ変わってきている。島でも、特産品を作る人やホテル関係者、ガイドする人など観光に携わる人達を中心となって立ち上げた観光推進協議会があるが、これまでその方向性が見えない状態で一体感が今ひとつつななかった。しかし、その一体感が生まれるアイテムとして「食のフェノロジー・カレンダー」が活用できれば、観光のさらなる発展が生まれると同時に、地域の活性化の核となる産業に発展するのではないかと期待している。また、子ども達からお年寄りまで、地域全体が「食」の大切さを改めて認識できるのではないかと思った。

最後に、これまでに頂いたアドバイスや資料を活かすためにも、食のフェノロジー・カレンダーを完成させ、印刷物として作成し、島の人誰もが活用出来る体制を作って行きたい。また、島外にも南大東島の「食」をアピールするためのアイテムとして利用できるようにしていきたい。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザーからの地域へのアドバイス

●南大東島の観光のスタイル

地域資源、また環境容量、観光インフラからみて、今後の南大東島の観光振興はリピーターの獲得にある。「何回でも訪れたい島」と感じてもらえる仕掛けづくりが、これからの課題である。そのキーワードは「食と人」島の特異な自然をはじめとする資源を、このキーワードと結びつけたエコツアー・プログラム開発を行う。

●「島ならではの食」の抽出ー「食のフェノロジー・カレンダー」の作成ー

情報の確認、追加の過程において、島ならではの素材や料理、また季節ならではの素材や料理を抽出していき、それらの料理の講習会、またそれを食べるイベントを実施し、島民や島外の客からの評価をみる。

●「島ならではの食」を食べられる所と時

そうした料理をツアー客が島のなかで食べられる場所をつくること、また、いつ、どこで食べられるかという情報を誰もが入手可能にすること。

●新しいプログラムの開発ー島への貢献の足跡を残すツアー、リピーターづくりー

南大東島を特色づける防風林（ピロウ林）は宝の宝庫であり、この宝探しは多様なプログラム開発に寄与する。自然及び、戦跡などの歴史・文化の宝探しの調査、専門家の指導の下に行ったらどうか。

その際、関心の深い層にこの調査への参加を呼びかけ、ツアーとして実施する。参加者の好奇心・向学心を満たすことができるばかりでなく、島の振興に貢献したという満足を得ることができる。島のファン、リピーター獲得にもつながる。

●取組体制づくり

観光関連事業者で構成されている観光振興協議会は食や新しいタイプのプログラム開発に関心をもっている。この組織が、エコツーリズム・プロデューサ（あるいはランドオペレータ）としての機能を高め、島の宝を商品としてのエコツアー・プログラムとして洗練し、プロモーション、販売の核となっていくことが必要。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 観光関連事業者はもちろん、行政、島民に「島まるごとミュージアム」の考え方が浸透している。ことに「食のフェノロジー・カレンダー」の作成作業は、「島まるごとミュージアム」に対する女性たちの関心と関与を高めた。たいがい元気な地域は女性が元気である。南大東島でも、女性たちがエコツーリズム推進の担い手として活躍することを期待している。
- ・ 「食のフェノロジー・カレンダー」は、島民及び島外からの来訪者に、南大東島の食を自慢するツールとして広く使えるよう、きれいな印刷物などにしたらどうか。

- 観光振興協議会のメンバーは、南大東島の観光のあるべき方向をよく認識している。南大東島の観光振興の核としての使命感をもって、経験を積み重ねていただきたい。
- 南大東島にはまだまだ発掘されていない宝がたくさんありそうです。幕（はぐ）の防風林（ビロウ林）の宝探しは、「島まるごとミュージアム」の財産目録の充実作業として、是非、取り組んでいただきたい。

NPO 法人西表島エコツーリズム協会

所在地 沖縄県八重山郡竹富町字上原 870-277 (NPO 法人西表島エコツーリズム協会)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりへ

観光が主産業の一つである西表島では、近年、沖縄ブームの沈静化、円高による観光客の海外流出、他離島との航空運賃の格差、などの複数の要因が重なり観光客数の減少が著しい。対比して石垣島からの日帰りによるエコツアー参加者の割合は増加傾向にあり、一部の観光スポット（観光資源）への、集中した環境負荷が問題となっている。

滞在型観光の促進や天候に左右されないエコツアーの開拓は、予めから提言されてきているが、従来の形態からなかなか抜け出せず、商品化に結びついていないのが現状である。

こうした「行き詰まり」とも言える状況に直面している今こそ、地域が協働して、潜在する島の魅力（＝観光資源）を、再発見・再発掘し、新たなエコツアーや滞在型観光プラン、その受け入れや発信の仕組みを作っていくことが必要であり、同時にその中での「西表島エコツーリズム協会」の役割を再確認することも重要であると考えられる。

今回のエコツーリズム推進アドバイザー派遣を利用させていただき、他地域での実践例や専門家のアドバイスを基に、従来の西表島のエコツーリズムへの取組とエコツーリズム協会の意義の見直し、観光資源の再発掘とその有効な活用、地域が協働するエコツーリズム推進体制づくりを行っていききたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	○
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	○
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源) マングローブ等の亜熱帯性植物、亜熱帯林と滝などの地形、稀少生物、サンゴ礁域とそこに生息する多種多様の海洋生物、染織物・民具などの生活文化、舞踊・民謡などの民俗芸能、稲作とそれに関連する風俗習慣、祭事	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動	○	
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動		○
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動		○
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながらか自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成24年3月6日（火）～9日（金）

●場所

沖縄県八重山郡竹富町（西表島）

- ・ 視察場所：島内全域

〔仲間川、由布島、環境省野生生物保護センター（見学）、マーレ川カヌー置場、星砂海岸、浦内川（遊覧船乗船）、干立集落、祖納集落と御嶽、紅露工房、青烽窯、エコツーリズムセンター（見学）、はてるま、八重山ポタル観察〕

- ・ アドバイス実施会場：浦内公民館

●エコツーリズム推進アドバイザー

有限会社オズ 代表取締役 江崎 貴久 氏

●参加者

西表島エコツーリズム協会、西表島カヌー組合、環境省西表自然保護管事務所、竹富町、宿泊施設関係者、地元住民 他

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1日目、2日目）

- ・ 西部地区を中心に島内全域を集落毎に視察（集落毎に大きく性質が異なるという背景を解説）
- ・ マングローブ林やサンゴ礁海岸、ホタルなどの自然資源の視察
- ・ 伝統的染織工房や陶芸工房、島の食などの文化的資源の視察
- ・ 環境省自然保護官、エコツーリズム協会会長、それぞれの目線からの西表島のエコツーリズムの現状と問題点の解説
- ・ オーバーユースが懸念されているピナイサーラの滝の解説とマーレ川上流カヌー置場の視察

（3日目）

第1部：講演形式

「地域が「協働」して西表島の魅力を発揮する仕組みづくり～地域を育てる連携・循環～」と題してお話しいただいた。主に江崎氏の三重県鳥羽市でのこれまでの活動・経験の紹介を通して、「観光」の基本的な概念、住民や多様な主体の観光への参加の形、本来の「おもてなし」の意味、循環型社会の仕組みづくり（＝エコツーリズム）などについて、あらゆる業種の参加者にわかりやすいように解説いただいた。

第2部：ワークショップ形式

第1部の講演で学んだことを基に、実際に西表島で私たちが何を大切にし、何を伝えていきたいのか、そして未来の島のビジョンをグループワークの形式で考え、改めて共通の認識を得た。その後、個々の業の中で大切なもの、そしてその価値を伝える工夫、その実現のためにどのような手法で地域協働や、連携体制を取っていくことが可能かということを具体的に検討し、それらに対してアドバイスをいただいた。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズム先進地域と言われる西表島で、これまでエコツーリズム推進に関わってきた人にも、そうでない人にもエコツーリズムの意味、定義を改めて認識してもらう機会となった。参加者の中にはエコツーリズムというものを初めて理解できたという声も聞かれた。
- ・ 今回の参加者には昨年発足した「西表女将の会」のメンバーが多く含まれていたが、活動初期の段階でこの事業にできたことにより、今後の活動内容の具体化や、これまであまり交流がなかった他の観光事業者とのつながり作りが進むきっかけとなった。また、江崎氏の「おもてなしの心」に触れ、それぞれに見直す機会となったようだ。
- ・ あらゆる主体の参加者にとって、観光への住民や多様な主体の参加や連携体制について、事例を紹介いただけたことにより、具体案へと結びつくイメージを作るきっかけとなったようだ。
- ・ 自分たちの大切にしたい資源とその伝え方、そして未来のビジョンまで、ワークショップでスムーズに導き出された手法が、今後様々な場面で目的やビジョンを明確にするアプローチ方法として応用ができる。
- ・ これまでの個々の活動が連携・協働につながっていくための手法を、形の上でもマインド面でも学ぶことができた。
- ・ 保全・保護活動が主体になっていたエコツーリズム協会にとって、今一度「地域のために」を念頭に置いて、理事や会員が活動方針や活動内容を見直す機会となった。

●今後の期待される効果

- ・ 西表女将の会によって全体的な宿泊施設の質の向上や、他主体と連携を図り、より地域住民が参加できる体制が構築されることが期待できる。
- ・ 地域住民や地域の多様な主体と連携して、その多くが参加できる形の、新たな体験プログラムやエコツアーの開発、そしてその受け入れの体制が整えられることが期待される。(西表島エコツーリズム協会がその役割として周囲から期待されていると感じるので、それに応えられるよう活動内容等の見直しを行っていきたい)。
- ・ より多くの島民が共通のビジョンを持ち、共有することによって、ルールの見直しやオーバーユースされている資源の救出のために、具体的な行動を起こすことが期待される。そしてその行動が行政をも動かし得るものとなり、行政と共に循環型社会の中での観光を潤していくために活動していけることが理想とする形である。

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

- ・ 江崎氏が行ってきた活動・経験をご本人から聞いたことは、非常に力(説得力、自信、愛情などすべて含んだ力)があり、参加した誰もが納得する内容で参考になった。特に住民の様々な形での観光やエコツーリズムへの参加は、学ぶべきところが多く、同時に「西表島でもできないはずがない」という気持ちと実現に向けたイメージを参加者にもたせたことは非常に大きな収穫であった。
- ・ 共通の目的、ビジョンを明確にすることの重要性とそれらを導き出す手法。
- ・ 本来の「おもてなし」の心。



●その他感想

西表島のエコツーリズムの転機ともいえるべき時に、江崎氏に来ていただいたことは、関係者や参加者らに一歩前に進む力を与えてくれたように感じた。江崎氏の終始おもいやり溢れ、そして非常にわかりやすいお話に参加者の誰もが何かを感じ取ったようである。講演やワークショップといった類のものに初めて参加されたという方もおられたが、そういった方々に「おもしろかった」と言っていたけたり、エコツーリズムに関心を持っていたけたりしたことも、「きくさん」の魅力ゆえであると思う。

実施後の参加者のアンケートでは今後もこのような事業の開催を望む声が多数あった。西表島エコツーリズム協会では、今後も地域住民の声をよく聞き、共に「人と自然との共生」を目指して、歩んでいきたいと思う。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

江崎アドバイザーからの地域へのアドバイス

来年度に向けて、西表島エコツーリズム協会が盛り上がっている今を機に、会員だけでなく、これまで参加していない方々が参加するための取組を進めていただくことが効果的であると思われます。そのために、大きく分けて、3つのカテゴリ別のアドバイスを行いました。



●目的・ビジョンの明確化

ここまで発展してきた西表島のエコツーリズムの原点から、今の西表島のエコツーリズムを見直し、世代を超えても100年後の西表島に向け、ぶれない目的とビジョンを明確にする必要があります。

●宿泊・ツアー共通のおもてなし

①本当のおもてなしは、地域にもお客様にも責任を持って喜んでもらうことですので、地域住民として、その業のプロとして、コーディネートできるバランス感覚を養ってください。

②おもてなしも、ルールも、形を受け継ぐものではありません。その心を受け継ぎ時代に合わせ、未来につながる形に表現して、地域もお客様も満足につなげてください。環境が変化すれば、ルールも見直す必要性があります。

③地域が栄え続けるために役立つ観光として、その目的に沿ったターゲットを明確にし、共有し、協働しておもてなしする地域の一元管理の仕組みを作っていくと、効果的で効率的になると思われます。

●総合ビジョンの中の観光について

①多様な人々が関わる必要性を創造する

間口の広い取り組みとして現在、継続発展している文化祭の取組は、広くどんな方にも参加をしていただける絶好の機会となっているのは、素晴らしいと思います。材料や製作方法にこだわった島の人々の郷土料理や工芸品、オリジナルの品々の紹介から、芸能発表、飲食の容器や運営方法に至るまで、西表島の自然や文化を大切にしている心や工夫が一貫性があり、その時間を通して訪れた人々は確実に西表島のエコツーリズムから「西表島の自然や文化を大切に受け継ぐ」というようなメッセージを受け取ることができていると思います。

今回のアドバイザー派遣を通して、現地でのヒアリングから感じたことは、今活動しておられる皆さんが「どんな人々にも参加してほしい」という気持ちとは別に、「こんな人に参加してほしい」という島内でも特にターゲットとする人々、言い換えれば、特に今必要とする種の人々がいるということでした。

こうした人々に参加してもらうためには、まず、参加していただきたい対象となぜ参加してほしいのか、その人々がなぜ必要なのかを明確にしておく、それを共有した会員みんなが新たな人々

を必要とする思いが、具体的な行動につながりやすくなります。また、西表島のエコツーリズムはその人々の産業や地域の課題にとって、どのように役立つことができるかを事前に考えておくと全体的な事業の継続化と効率化にもつながります。

その方々が参加できない理由を明確にすることがあげられます。その上で、どうすればそのハードルがなくなるのかを工夫することが、同時に信頼関係も構築できるモノと思われれます。個々の自主事業（職業や商い）を生かした参加方法と地域のボランティア活動への参加など、形態を多様化させることも、その一つです。また、参加の際のパブリックでの機能も必要と思われれます。ワーキングの時にも明らかになったように、「自分たちの能力や事業を活かして活動につなげたいが、窓口・受け皿としてまとめ役をしてくれるところがあれば…」と感じているやる気のある島民がいることは確かです。西表島エコツーリズム協会からも、協会でその役割は可能との積極的な発言をいただきました。ぜひ、これを機に、そのような仕組みを作っていただければ、前述した宿泊とツアーの一元管理の仕組みとも相乗効果をもたらすことができるはずです。

②観光基本計画、エコツーリズム全体構想等、観光立町宣言を具体化するアクションを行政と協力して実施していくことも必要と思われれます。島にはパワフルな女性が多く、これまで必要と思われれることは自主的に自己資金で実現していく推進力となっています。残念ながら、身近な地域の自治体はその勢いを活用したり、サポートしたりすればよいのかが明確ではないまたは、模索段階にも入っていないという状況で、各担当者レベルの判断でしかない実情があります。そのためには、島民だけではなく外からのアプローチも効果的に行っていく必要性があります。特に、町民に対して行政が施策を打ち出す大義が見いだせ、観光振興のための観光ではなく、住民の将来にわたる暮らしのための手法としての観光につながるよう外部者ができる役割を県行政や国を含めて考えていくことが必要です。

●最後に

地域全体での取組を効果的にするためには、地域の人々だけではなく、それを支える仕組みも必要であると感じました。たとえば、自然を利用して収益を得ているカヌー事業者のフィールドの使い方に問題が出てきている。国有林内に乱雑にカヌーが置かれ、それによって国有地の占有範囲が広がっている事例も目にしました。おそらく、ここまで無法に発展してしまうと自主規制も言い出せない状況にあるのではないかと思われれます。

全国的にもカヌー事業者と地元との問題を最近よく耳にしますが、そうした業界団体が地域やフィールドに対して、事業者指導をするような取組も必要となっているのではないかと思います。ただ、カヌーインストラクターや事業者は資格や許認可が要らないため、全国のカヌー事業者がこのような全国組織と関わりを持っていないければならない必要性がありません。実際、西表島のカヌー事業者は、日本レクリエーションカヌー協会（JRCA）や公益社団法人 日本カヌー連盟（JAPAN CANOE FEDERATION）などの全国組織の資格受講者も少ないようです。しかし、今後の地域トラブルを防ぎ自然や文化の破壊を防ぐため、地域をフィールドにする業界団体も、自然保護や社会貢献事業だけでなく、日常業務での地域への配慮や連携について啓発活動への協力が必要です。

外部から関わる人々もその役割をもって、西表島に関わっておられるのだと思います。外部の私たちのできることも検討していきたいと思っています。島の自然も文化も大切に作るチームは島の人だけではなく、旅人も、私たちがみんなです。これからも、ともに頑張っていきましょう。

環境省請負業務

平成 23 年度エコツアーリズムアドバイザー派遣事業 事例集

平成 24 年 3 月発行

財団法人日本交通公社

東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル 17 階

リサイクル適正への表示：紙へリサイクル可
この印刷物はグリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」にかかる判断の基準に従い
印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作成しています



環境省

Ministry of the Environment